令和8年度

幹線市道整備事業

土与丸御薗宇線標識設置工事

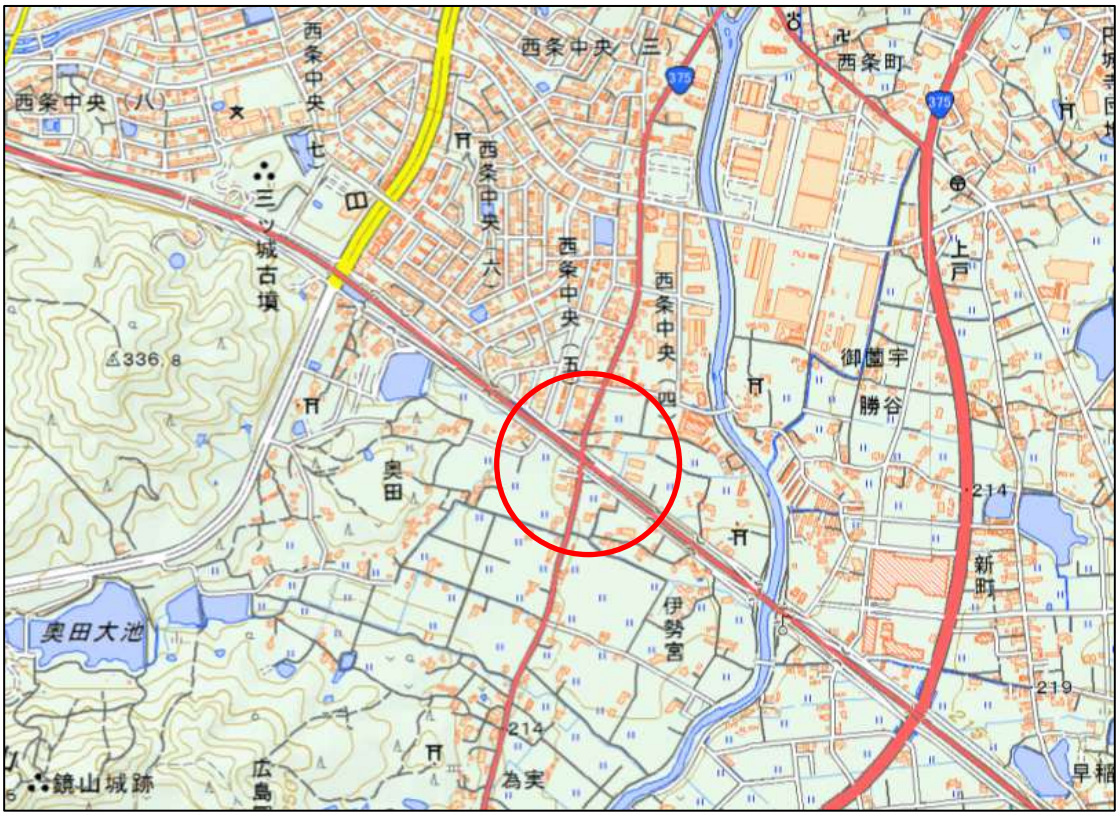
仕様書

施　工　場　所　　東広島市西条町御薗宇、西条中央四丁目

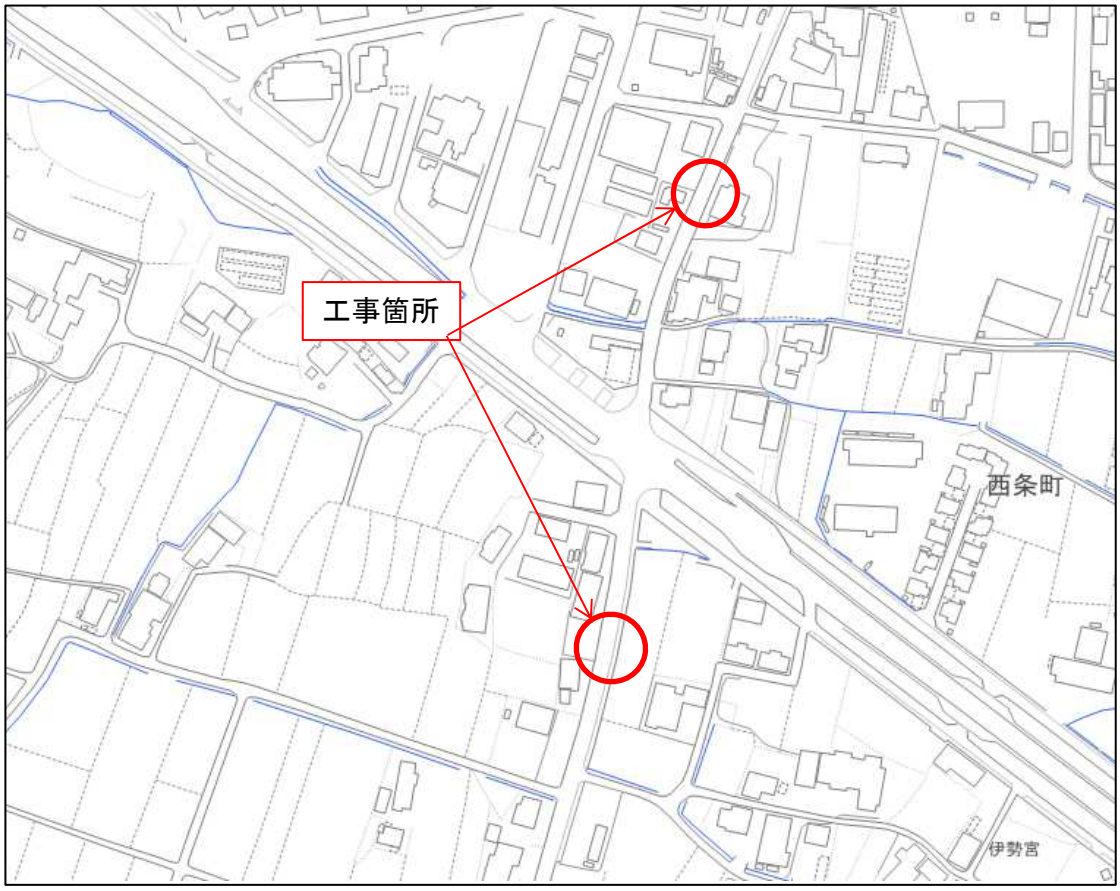
東広島市

位置図

広域図


西条中央（八）
西条中央七
三ツ城古墳
西条中央（三）
西条中央六
西条中央五
西条中央四
西条町
上戸
御薗宇
勝谷
奥田
奥田大池
伊勢宮
新町
214
219
為実
鏡山城跡
広島
早稲
△336.8

詳細図


工事箇所
西条町
伊勢宮

特　記　仕　様　書

令和8年度　幹線市道整備事業　土与丸御薗宇線標識設置工事

第1章　総則
1. 適用
2. 前払金
3. 現場代理人の兼務
4. 現場作業終期日
5. 履行報告
6. 官公庁等への手続き等
7. 工事中情報共有システム（受注者希望型）
8. 熱中症対策に資する現場管理費の補正
9. 主任(監理)技術者及び現場代理人の配置について
10. 法定外の労災保険の付保
11. 週休２日適用工事等　週休２日
12. 建設副産物の取り扱いについて
13. 猛暑時間の施工回避
14. 猛暑日等を考慮した工期延長について
15. 熱中症による健康障害発生時の対応計画

第2章　工事材料
1. 見本・品質証明資料
2. 品質規格証明資料等
3. 溶融スラグを利用した資材の使用

第3章　施工条件
1. 工程
   (1) 関連する別途工事
   (2) 施工時期・時間の制限
2. 安全対策
   (1) 交通誘導警備員・警戒船・保安要員
   (2) 架空線の防護管に要する費用について
3. 盛土・埋戻土
   (1) 流用土(工事内流用)
4. 建設副産物
   (1) 建設発生土（建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入地への搬出）
   (2) コンクリート殻（無筋）(搬出)
   (3) アスファルト殻(搬出)

第4章　施工管理
1. 出来形管理
   (1) 表層工及び道路面に天端が接する構造物

第5章　その他
1. 工事関係書類
2. 工事写真
3. 疑義の解決等
4. 仮設工
5. 標識設置高さ
6. 標識設置場所

7.　標識版の配色について

特　記　仕　様　書

第1章　総則

1.　適用

本工事の施工にあたっては、「土木工事共通仕様書（令和８年８月）広島版（適用区分「広島」及び「広島県」）」及び東広島市制定の第15編下水道編(最新版)に基づいて実施しなければならない。

この場合においては、次のとおりとする。

(1)　「広島県」とあるのは「東広島市」と読み替える。(ただし、第1編第1章第1節1-1-1-27第10項、第1編第1章第2節1-1-2-1第3項、1-1-2-8第1項、1-1-2-9第1項、1-1-2-10第1項、1-1-2-11第1項、第6項、第8項、1-1-2-14第2項、1-1-2-16第1項、第3項、第2編第1章第3節2-1-3-1、第3編第1章第2節3-1-2-3第2項においては読み替えない。)

(2)　「建設工事請負契約約款」とあるのは「東広島市の建設工事請負契約約款」と読み替える。

(3)　「土木工事監督規程」とあるのは「東広島市建設工事監督事務取扱要綱」と読み替える。

(4)　「土木工事検査規程」とあるのは「東広島市建設工事検査規程」と読み替える。

(5)　「建設工事執行規則第19条の1」とあるのは「東広島市建設工事執行規則第19条第1項」と、「建設工事執行規則第41条の2」とあるのは「東広島市建設工事執行規則第41条第2項」と読み替える。

(6)　「広島県契約規則第2条の1」とあるのは「東広島市契約規則第2条第1項」と読み替える。

(7)　「土木工事検査技術基準」とあるのは「東広島市の「土木工事検査技術基準」」と読み替える。

(8)　「低入札価格調査制度事務取扱要綱」とあるのは「東広島市低入札価格調査制度事務取扱要領」と読み替える。

(9)　「広島県の建設工事入札参加資格」とあるのは「東広島市の競争入札参加資格」と読み替える。

(10) 広島県の「建設業者等指名除外要綱」とあるのは東広島市の「建設業者等指名除外基準要綱」と「建設業者等指名除外要綱別表第18号」とあるのは東広島市の「建設業者等指名除外基準要綱別表第22号」と読み替える。

(11)　「建設工事における低入札価格調査制度事務取扱要綱」とあるのは「東広島市低入札価格調査制度事務取扱要領」と、「建設工事における低入札価格調査制度事務取扱要綱第10条」とあるのは「東広島市低入札価格調査制度事務取扱要領第11条」と読み替える。

(12)　「県発注工事等における暴力団排除のための契約制限要綱」とあるのは「東広島市建設工事暴力団等排除要綱」と読み替える。

(13) その他

編	章	節	条	見　出　し	項	特記及び追加仕様事項
1	1	2	5	工事の下請負	3から6まで	適用しない。
1	1	2	14	施工管理	1	適用しない。
1	1	2	16	環境対策	4	適用しない。
1	1	3	3	現場代理人及び主任技術者又は監理技術者	5から6まで	適用しない。
1	1	3	4	下請負及び契約の制限	1(2)	適用しない。
1	1	3	5	主要資材の購入		適用しない。
1	1	3	7	契約後VE工事		適用しない。
1	1	3	9	県産材の活用	(2)	適用しない。
1	1	3	10	工事現場の現場環境改善等		適用しない。
1	1	3	11	現場環境改善（ウィークリースタンス）の実施	(4)[2]から[7]まで	適用しない。
3	1	1	1	請負代金内訳書		適用しない。
3	1	1	2	工程表		適用しない。
3	1	1	7	工事完成図書の納品	2から6まで	適用しない。
3	1	1	8	技術検査	3から5まで	適用しない。
3	1	2	1	請負代金内訳書		適用しない。
3	1	2	2	工程表		適用しない。
3	1	2	5	工事完成図書の納品		適用しない。
3	1	2	6	提出書類	2	適用しない。
3	1	3	1	工事完成図書の納品		適用しない。
3	1	3	2	技術検査	2	適用しない。

2.　前払金

契約金額が50万円以上の建設工事の場合は前払金を請求することができる。前払金は請負代金の40%以内とする。また、契約に当たって契約約款特約事項第22項により中間前払金を選択するものにあっては、中間前払金は請負代金の20%以内とする。その他、前金払・中間前金払の適用は次の要領による。

・建設工事請負代金前金払実施要領
・建設工事請負代金中間前金払実施要領
・東広島市余裕期間制度適用工事に係る事務取扱要領

3. 現場代理人の兼務

1 現場代理人の兼務については、「技術者等の適正配置について」によるものとする。

2 発注者は、受注者からの申請に基づき、兼務する各工事の内容、工程等を勘案し、現場代理人の兼務について承認の適否を決定し、承認する場合は現場代理人兼務承認書により、承認しない場合は現場代理人兼務非承認書に承認しない理由を記載の上、速やかに受注者に通知する。

3 発注者は現場代理人の兼務について、次に掲げる事由に該当すると認めたときは、現場代理人兼務承認取消書により、その承認を取消すものとする。

⑴ 兼務を予定する工事の発注者が兼務を承認しないことが明らかになったとき
⑵ 兼務を承認した日から起算して14日(東広島市の休日を定める条例(平成元年東広島市条例第６号)第１条第１項に規定する市の休日を除く。)を経過した後においても、兼務先の発注者が兼務を承認したことを証する書面の写しが提出されないとき
⑶ 兼務申請において、重要な事項について虚偽の申告をし、又は重要な事実の申告を行わなかったことが判明したとき
⑷ 兼務の承認後、重要な事項や重大な状況の変化について報告を行わない等、必要な報告を怠ったことが判明したとき
⑸ 著しい状況の変化により、兼務を承認することが適当でなくなったとき
⑹ その他、発注者が兼務を承認することが適当でなくなったとき

4 重要な事項について虚偽の申告を行う等、不適切な申請を行った者、又は、兼務の承認後に重要な事項や重大な状況の変化について報告を行わない等、必要な報告を怠った者に対しては、請負契約に基づく是正措置の請求や指名除外等の必要な措置を行うことがある。

※ 同一町内における町とは西条町、八本松町、志和町又は高屋町にあっては昭和49年4月20日前の町の区域とし、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町又は安芸津町にあっては平成17年2月7日前の町の区域とする。

4. 現場作業終期日

本工事の施工に当たっては、工期末の30日前までに、下記の作業を終了しなければならない。

・直接工事費に係る現場作業

なお、現場作業終期日までに適時、速やかに「土木工事共通仕様書（令和８年８月）広島版」第1編1-1-1-24第2項第3号に記載してある出来高が確認できる資料を監督職員に提出しなければならない。

5. 履行報告

履行報告の提出にあたっては、実施工程表と平面図（施工済み箇所を着色）又は、進捗状況が確認できる写真を添付すること。なお、月締め報告とし、翌月７日までに提出すること。

6. 官公庁等への手続き等

受注者は、関係官公庁及びその他の関係機関との諸手続きにおいて許可、承諾等を得た場合はその書面(写し)を提出するものとし、更新手続き(許可内容が同じもの)の場合は、届出等の鑑のみとする。

7. 工事中情報共有システム（受注者希望型）

（１）本工事は、工事中情報共有システムの対象（受注者希望型）である。
（２）工事中情報共有システムを利用するにあたり、発注者に連絡の上、利用申込すること。
（３）本工事で使用する情報共有システムは次のとおり。
広島県工事中情報共有システム（一般社団法人　広島県土木協会）
http://www.hdobokuk.or.jp/koujijyouhoushisutemu2.html
（４）工事中情報共有システム利用に必要な費用は設計金額に含まれている。
（５）利用にあたっては「東広島市発注工事における広島県工事中情報共有システム利用実施要

領」に基づくこと。
（6）運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づくこと。
この場合においては、次のとおりとする。
1）「1.3.適用する基準」のうち、「土木工事監督規程（広島県）」および「土木工事監督実施要領（広島県）」は「東広島市建設工事監督事務取扱要綱」と、「土木工事検査規程（広島県）」とあるのは「東広島市建設工事検査規程」と、「土木工事検査技術基準（広島県）」とあるのは「土木工事検査技術基準（東広島市）」と読み替えるものとする。
2）「CAD製図基準（国土交通省）」および「CAD製図基準に関する運用ガイドライン（国土交通省）」は適用しない。
3）「4.検査」は適用しない。
4）検査は、発注者と協議のうえ、紙媒体による検査と電子検査の併用とすることができるものとする。
5）受注者は、工事中情報共有システムにより処理した工事完成図について、電子成果品として納品するほか、紙の成果品も納品すること。

8. 熱中症対策に資する現場管理費の補正
（1） 本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う工事である。
（2） 工期(工事の始期日から工事の終期日までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日、後片付け期間の合計をいう。なお、検査期間13日、年末年始6日間（12月29日～1月3日）、夏季休暇3日間（国民の祝日である山の日の次の日から土曜日、日曜日、振替休日を除く3日間とする。）、工場制作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。）期間中の真夏日の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。
（3） 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。また、日最高暑さ指数（WBGT）が25度以上の日をいう。
ただし、夜間工事のみの場合は、作業時間帯の最高気温または最高暑さ指数 （WBGT）を対象とする。
（4） 気温の計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温または環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。
（5） 受注者は、工事期間中における気温の計測箇所、用いる計測値及び計測期間（計測開始日、計測終了予定日）を明記した施工計画書を工事着手前に提出し、計測結果を工事完成時までに監督職員に提出すること。
（6） 受注者は、計測終了日について、工事完成時までに監督職員と協議するものとする。
（7） 積算方法は次のとおりとする。
1）補正方法
ア 受注者より提出された計測結果の資料を基に、補正値を算出し現場管理費率に加算する。なお、現場管理費率の補正は「積雪寒冷地域で施工時期が冬期となる場合の補正」、「緊急工事の場合」及び本補正値を合計し、2%を上限とする。
イ 真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期
ウ 補正値（%）＝真夏日率×1.2
2）補正値の計算結果は、パーセント表示で小数点3位を四捨五入して2位止めとする。
（8） 受注者より、熱中症対策に資する現場管理費の補正が不要である旨の協議があった場合は、補正を行う工事から対象外とすることができる。
（9） 検査職員から修補の指示があった場合、修補期間は対象外とする。

9. 主任(監理)技術者及び現場代理人の配置について
東広島市発注工事における主任(監理)技術者及び現場代理人の配置についての取り扱いは、「技術者等の適正配置について」によるものとする。

10. 法定外の労災保険の付保
1 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
2 受注者は、建設工事請負契約約款第４７条に基づき、法定外の労災保険の契約締結をしたときは、その証券又はこれに代わるものを速やかに監督職員に提示しなければならない。
3 法定外の労災保険は、政府の労働者災害補償保険とは別に上乗せ給付等を行うことを目的とす

るものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）全国建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、契約を締結しているものとする。

11.　週休２日適用工事等　週休２日

本工事は、週休２日適用工事（発注者指定型）であり、「東広島市週休２日適用工事等実施要領（最新版）」に従うこと。

なお、実施要領に基づき提出する必要のある様式「休日取得計画表」は「検査課HP＞施工関連資料＞週休２日適用工事等の実施について」に掲載している。

12.　建設副産物の取り扱いについて

本工事における建設副産物の取扱いについては、土木工事共通仕様書1-1-2-11 建設副産物のとおり取り扱うこととする。なお、「再生資源利用計画」、「再生資源利用促進計画」及び「実施書の提出」については、次のとおりとする。

１　再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画

受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。また、受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令に基づき、再生資源利用促進計画（５の確認結果票を含む）を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。なお、その内容に変更が生じたときは、速やかに利用計画及び促進計画を変更し、監督職員に報告しなければならない。

２　計画の掲示及び公表

受注者は、１の再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

現場掲示様式については、次のURLを参考に作成すること。

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm

３　実施書の提出

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を監督職員に提出しなければならない。なお、受注者は、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書の作成後、工事完成から５年間保存しなければならない。

４　工事現場の管理体制

受注者は、再生利用の促進を行うため、工事現場における建設副産物責任者を置くことにより、管理体制を整備するとともに、当該責任者に対し、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画の内容について現場担当者の教育を十分行うこと及び、関係する他の施工者及び資材納入業者もこれを周知徹底することを指導するものとする。

５　建設発生土搬出に関する関係法令の手続きの確認及び確認結果票の作成

受注者は、再生資源利用促進計画の作成にあたり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、あらかじめ次に掲げる事項を確認し、また各事項の確認の結果を記載した書面（確認結果票）を作成しなければならない。

※確認結果票は「広島県の調達情報」に掲載している。

なお、対象となる工事は請負代金額が100万円以上、または建設発生土の搬出が500m3以上の工事を対象とする。

(1) 工事現場内の土地の掘削その他の土地の形質の変更が土壌汚染対策法（平成14年法律第53号）第３条第７項又は第４条第１項の規定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされている。

(2) 再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先における建設発生土の搬入に係る行為に関する次に掲げる事項

(1) 当該行為が宅地造成及び特定盛土等規制法（昭和36年法律第191号。以下「盛土規制法」という）第12条第１項、第16条第１項、第30条第１項又は第35条第１項の規定による許可を要する場合にあっては、当該許可を受けている。

(2) 当該行為が盛土規制法第21条第１項、第27条第１項、第28条第１項又は第40条第１項の規

定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされている。
(3) 上記(1)、(2)に掲げる事項のほか、再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先が適正であることを確認するために必要な事項その他の建設発生土の搬出に関する事項

6　運搬業者への通知

受注者は、建設発生土の運搬を行う者に対し、再生資源利用促進計画及び確認結果票の内容を通知するものとする。またその内容に変更が生じたときには、速やかに運搬を行う者に通知するものとする。

7　確認結果票の掲示及び公表

受注者は、確認結果票を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

8　確認結果票の保管

受注者は、確認結果票を建設工事の完成後５年間保存するものとする。

9　建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求

受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画に記載した搬出先へ搬出したときは、速やかに当該搬出先の管理者（搬出先が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、次に掲げる事項を記載した受領書の交付を求めるものとする。

(1) 建設発生土の搬出先の名称（搬出先が工事現場である場合は、建設工事の名称。）及び所在地
(2) 建設発生土の搬出先の受注者の商号、名称又は氏名
(3) 建設発生土の搬出元の名称及び所在地
(4) 建設発生土の搬出量
(5) 建設発生土の搬出が完了した日

10　建設発生土の搬入元への受領書の交付

受注者は、建設発生土を利用計画に記載した搬入元から搬入したときは、速やかに当該搬入元の管理者（搬入元が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、前号に掲げる事項を記載した受領書を交付するものとする。

11　受領書の内容確認

受注者は、搬出先から受領書の交付を受けたときは、再生資源利用促進計画に記載した内容と一致することを確認する。

12　受領書の保管

受注者は、受領書又はその写しを建設工事の完成後５年間保存するものとする。

13　建設発生土の最終搬出先までの確認

受注者は、建設発生土が再生資源利用促進計画に記載した搬出先（次の(1)から(4)のいずれかに該当する搬出先を除く。）から他の搬出先へ搬出されたときは、速やかに、当該他の搬出先への搬出に関する９（1）～（5）に関する事項を記載した書面を作成するとともに、当該書面を当該再生資源利用促進計画に係る建設工事の完成後５年間保存するものとする。建設発生土が更に他の搬出先へ搬出されたときも、同様とする。

(1) 国又は地方公共団体が管理する場所であって、受入れ完了後に当該国又は地方公共団体が受領書を交付する場合
(2) 受注者の管理下にある他の工事現場で利用するために一時堆積する場合
(3) ストックヤード運営事業者登録規定により国に登録されたストックヤード
(4) ９の受領書の土砂の利用種別が「盛土利用等」である建設発生土受入地（再搬出しないもの）

13.　猛暑時間の施工回避

1　本工事は、現場環境に応じて猛暑時間帯の現場作業を回避し、作業の開始時間や終了時間を発注者と協議し設定できる工事である。

2　実施方法は次のとおりとする。

(1)　内容

ア　受注者は、現場環境に応じて猛暑時間帯の現場作業を回避し、作業の開始時間や終了時間を監督職員と協議し設定できる。

イ　作業時間を短縮した場合は、短縮時間に応じて、工期を延長することができるものとする。

ウ　工事における現地の立会等については、監督職員の勤務時間に合わせるものとする。

エ　対象期間は、６月１日から９月３０日までとする。

(2)　工期延長日数の算出方法

工期の延長日数※1(日)＝短縮時間(時間)×対象期間※2(日)÷８(時間)
なお、猛暑日等による作業不能日とは、別に考慮できるものとする。
※１　小数第１位を切り上げるものとする。
※２　現場閉所日を含む。

３　作業時間の変更に伴う工事費の増額については、設計変更の対象としない。

14.　猛暑日等を考慮した工期延長について

１　本工事は、工期に「猛暑日等による作業不能日」として、休日(土日、祝日、年末年始休暇及び夏期休暇)、降雨降雪日及び猛暑日日数を48日見込んでいる。

「猛暑日等による作業不能日」＝施工に必要な実日数×雨休率
雨休率(休日、降雨降雪日及び猛暑日日数による作業不能日を見込むための係数)：　0.78
雨休率に見込んでいる作業不能日は、次のとおりである。(過去５年間の気象庁及び環境省のデータより年間の平均発生日数を算出)

(1)　１日の降雨・降雪量が10mm/日以上の日：　31日/年
(2)　８時から１７時までのWBGT値が31以上の時間を足し合わせた日数：　5日/年

２　・著しい悪天候や気象状況より「猛暑日等による作業不能日」が当初見込んでいる日数と著しく乖離し、かつ作業を休止せざるを得なかった場合には、受注者は監督職員へ工期の延長変更を協議することができる。

・受注者は、協議の際に気象庁及び環境省の計測データ等を監督職員へ提出すること。計測データは、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所及び環境省が公表している観測地点を用いることを標準とする。

なお、提出する必要のある様式「猛暑日等による作業不能日算出表」は「広島県の調達情報HP＞公共工事等の情報_様式集＞建設工事関係_その他契約関係様式」に掲載している。

・費用は、工期延長日数に応じて「工事における工期の延長等に伴う増加費用の積算」(土木工事標準積算基準書(共通編)第Ｉ編総則 第９章)に基づき増加費用を積算し、変更契約において計上する。

15.　熱中症による健康障害発生時の対応計画

１　猛暑による厳しい環境下での現場作業※が見込まれる工事を対象とする。
※WBGT28度以上又は気温31度以上の環境下で、連続１時間以上又は１日４時間を超える作業

２　受注者は、熱中症のおそれがある労働者を把握した場合に、迅速かつ的確な判断ができるよう、「緊急連絡網、緊急搬送先の連絡先や所在地」及び「作業離脱、身体冷却、医療機関への搬送等の熱中症による重篤化を防止するために必要な措置の実施手順」などを施工計画書の「緊急時の体制及び対応」項目に記載するとともに、工事関係者へ周知すること。

第2章　工事材料

1.　見本・品質証明資料

受注者は、次に示す材料又は監督職員が指示する材料について、見本又は品質を証明する資料を、材料を使用するまでに監督職員に提出するものとする。また、材料の購入は監督職員の確認を受けた後に行うものとする。

区　分	材　料　名	摘　要
プレキャスト製品	セメントコンクリート製品一般	ＪＩＳ製品以外
その他	レディーミクストコンクリート	
	アスファルト混合物	事前審査制度の認定混合物を除く

2.　品質規格証明資料等

受注者は、工事に使用した次に示す材料又は監督職員が指示する材料の品質を証明する試験成績表、性能試験結果、ミルシート等の品質規格証明書を監督職員に提出するものとする。

区　分	材　料　名	摘　要
プレキャスト製品	セメントコンクリート製品一般	ＪＩＳ製品以外
その他	レディーミクストコンクリート	
	アスファルト混合物	事前審査制度の認定混合物を除く

3.　溶融スラグを利用した資材の使用

1.　溶融スラグを利用した資材の使用

再生加熱アスファルト混合物、プレキャストコンクリート製品、再生路盤材及び埋戻材等については、広島中央環境衛生組合が製造する溶融スラグ（以下「溶融スラグ」という。）を利用した資材を使用するよう努めるものとする。溶融スラグ利用及び使用する資材にあたっては「溶融スラグの有効利用促進等に関する方針」「溶融スラグ有効利用ガイドライン【品質編】、【運用編】」に準拠するものとする。なお、これにより難い場合は、監督職員と協議すること。

2.　品質管理及び確認

1.で示したもののほか、溶融スラグを利用した資材の使用における品質の管理及び確認は、広島版「土木工事共通仕様書(令和８年８月)」及び広島版「施工管理基準(令和８年８月)」によるものとする。ただし、書類により品質が確保できる項目においても、監督職員が必要と認めるものは現場検収を実施できるものとする。

3.　再生加熱アスファルト混合物への使用

溶融スラグを再生加熱アスファルト混合物に使用する場合、広島版「土木工事共通仕様書（令和８年８月）」の「1-1-2-16　環境対策」に示す登録リサイクル製品の使用は適用しないものとする。

4.　適合規格

溶融スラグの適合規格については、広島版「土木工事共通仕様書(令和８年８月)」に記載の適合規格（「2-2-3-1 一般事項　1.」）ではなく、「JIS A 5031　一般廃棄物，下水汚泥又はそれらの焼却灰を溶融固化したコンクリート用溶融スラグ骨材」を適用するものとする。

第3章　施工条件

1.　工程

(1) 関連する別途工事

工事名	一般国道2号道照交差点改良事業（広島国道事務所施工）
影響箇所	土与丸御薗宇線（道照交差点）
他工事の内容	一般国道2号　道照交差点立体工事
時期	施工中～令和9年3月

(2) 施工時期・時間の制限

施工内容	標識設置工事
時期	全工事時期
時間	9:00～16:00（作業時間）
施工方法・理由	警察との協議による。通勤時間帯をさけて施工すること。

2.　安全対策

(1) 交通誘導警備員・警戒船・保安要員

交通誘導警備員　・交通誘導警備員の配置人数は、工事着手後、規制を要する日から12日間(3人／日)を見込んでいる。ただし、現場条件の変更等により、交通誘導警備員の人数変更が必要となった場合には、事前に監督職員と協議を行った上で変更対象とする。

(2) 架空線の防護管に要する費用について

工事区域上空の架空線の防護管に要する費用については、現在見込んでいない。

架空線に近接した工事の施工に当たって、架空線管理者又は防護管施工会社（以下、「架空線管理者等」という）との協議により、架空線管理者等から防護管に要する費用負担を求められた場合、工事打合せ簿により監督職員と協議し、設計変更の対象とする。

設計変更の対象として認められる場合は、架空線管理者等からの見積書を提出すること。

3.　盛土・埋戻土

(1) 流用土(工事内流用)

本工事の施工により発生する土のうち、　79m3(地山土量)　については当該工事の施工に流用するものと見込んでいる。

4.　建設副産物

(1) 建設発生土（建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入地への搬出）

当該工事により発生する建設発生土は、広島県制定の建設発生土処分先一覧表に掲載されてい

る建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入地に搬出するものとする。
　また、積算上の搬出先として、建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入地のうち、運搬費と受入費の合計が最も経済的になる次の施設を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用（単価）は変更しない。
　なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、広島県制定の建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入地への搬出が困難となった場合は、発注者と受注者が協議の上、設計変更の対象とする。
　ただし、災害復旧工事において、市が公募により決定した「災害発生土民間受入先」と受入について土質や搬出スケジュール等の協議が整えば、搬出先を「災害発生土民間受入先」に変更する場合がある。
　当該工事で見込んでいる再資源化施設、運搬距離
砂・砂質土・礫質土
（名称）　　株式会社オハラリサイクルセンター
（所在地）　　東広島市西条町田口字石堂原10877-15
（運搬距離）　　6.1ｋｍ
(2) コンクリート殻（無筋）(搬出)
　当該工事により発生するコンクリート殻（無筋）は、広島県制定の再資源化施設一覧表に掲載されている施設に搬出するものとする。
　搬出先として、運搬費と受入費(平日の受入費用)の合計が最も経済的になる再資源化施設を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き処分に要する費用(単価)は変更しない。
　また、運搬距離は　6.6ｋｍ　を見込んでいる。
(3) アスファルト殻(搬出)
　当該工事により発生するアスファルト殻は、広島県制定の再資源化施設一覧表に掲載されている施設に搬出するものとする。
　搬出先として、運搬費と受入費(平日の受入費用)の合計が最も経済的になる再資源化施設を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き処分に要する費用(単価)は変更しない。
　また、運搬距離は　6.6ｋｍ　を見込んでいる。

第4章　施工管理
1.　出来形管理
(1) 表層工及び道路面に天端が接する構造物
　本工事において、路面に天端が接する構造物の出来高管理は下記のとおり行うこと。
　なお、下記以外の項目については、広島県制定「土木工事施工管理基準(令和８年８月)」に基づいて実施しなければならない。

工　種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘　要
表層工	基準高さ▽	±30	40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。		
道路面に天端が接する構造物(コンクリートブロック工、コンクリート擁壁工、側溝工等)	基準高さ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		

第5章　その他
1.　工事関係書類
⑴ 工事関係書類の作成は、東広島市建設工事関係書類作成要領 -土木工事編-によるものとする。
⑵ 工事関係書類の提出は、「契約関係書類」1部、「施工管理書類」は、工事打合せ簿による場合は2部、その他による場合は1部とする。

2.　工事写真
　工事写真の撮影に当っては、広島県制定「写真管理基準（令和８年８月）」によるものとし、納品に当っては、電子媒体又は紙媒体、情報共有システム登録のいずれかとする。

なお、電子納品物は「広島県電子納品実施要領」に準拠し、作成すること。

3. 疑義の解決等

本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督職員と協議し決定すること。

4. 仮設工

仮設工（任意）については、事前に設置方法を施工計画書にまとめ、監督職員へ提出すること。
なお、仮設方法については、正当な理由がある場合は、請負代金額の変更対象とする。

5. 標識設置高さ

片持式の標識については、標識版の設置高さを5.0m以上確保すること。

6. 標識設置場所

標識の詳細な設置場所については、発注者と協議したうえで決定すること。

7. 標識版の配色について

標識版の配色については、受注者に別途通知するものとする。

特記仕様書（中東情勢の変化による建設資材の流通状況を踏まえた設計変更について）

１　本工事は、供給の偏りや流通の目詰まりにより入手が困難となっているナフサを由来とする建設資材（以下、「調達検討資材」という）の調達に必要となる経費（以下、「別途調達経費」という）について、設計変更により計上できる工事である。

２　調達検討資材

ナフサを由来とする主要な建設資材の一覧

資材カテゴリ	主成分・性質
ジオテキスタイル	ＰＰ、ＰＥＴ
防草シート	ＰＰ、ＰＥＴ
排水材・フィルター	ＰＰ、ＰＥＴ
パイプ・配線管	塩ビ、ＰＥ、ＰＰ
ケーブル・配線管	塩ビ、ＰＥ
接着剤	ポリウレタン、エポキシ樹脂
塗料・シンナー	トルエン・キシレン等
止水材・シーリング材	ポリウレタン、アクリル
防水シート（トンネル）	塩ビ、合成ゴム
コンクリート混和材	ポリカルボン酸エーテル
仮設資材（ブルーシート、土のう）	ＰＥ、ＰＰ、ＰＶＣ
断熱材	ポリウレタン、ポリスチレン

※代表的なナフサ由来の資材の一例であり、この一覧にない場合でも協議することができる。
ただし、ナフサ由来の資材であることを確認すること。

３　内容

（１）　受注者は、調達検討資材について、別途調達経費が必要となる場合には、事前に「(様式１) 調達検討資材に関する協議書」を提出し、監督職員と協議するものとする。ただし、調達検討資材を直ちに購入契約する必要がある等、迅速な対応が求められる場合には、口頭、電子メールなどで協議することも可能とするが、事後、遅滞なく書面により協議するものとする。

なお、別途調達経費が必要となる場合とは、次のとおり想定している。

①　調達検討資材の代替資材を調達した場合
（例：塩化ビニル管を鉄管やコンクリート管に変更して施工する場合）

②　調達検討資材の流通経路を見直して調達した場合
（例：通常より遠方から調達する必要があり、運搬費が追加で必要な場合）

③　調達検討資材を調達した場合（ただし別途調達経費を含む）
（例：通常より調達ロットを小さくせざるを得なくなり、単価が高くなる場合）

（２）　受注者は、設計変更に際し、「(様式２）調達検討資材に関する実施報告書」及び実際の取引伝票、請求書等（調達時期、購入数量、購入単価が記載された資料）を監督職員に提出すること。

（３）　妥当性が確認された別途調達経費については、設計変更の対象とする。ただし、受注者の責めに帰すべき事由により生じた増加費用については、設計変更の対象としない。

（４）　受注者は、代替資材を調達する場合には、当該代替資材が設計図書で求める機能や品質等を満足していることが確認できる資料（カタログ等）を作成し、監督職員に提出しなければならない。

※ 様式については、契約課ホームページに掲載

4　積算方法

（1）　設計変更は、精算変更時（指定部分がある場合には、その指定部分の精算変更時）に行うことを基本とする。

（2）　設計変更を行う対象数量の考え方は、次のとおりとする。

既済部分について出来高部分払いを行っている場合は、当該既済部分払いの対象となった出来高部分に係る数量を除いた数量を設計数量とする。

証明された数量と対象数量の考え方
証明数量＜設計図書の数量 → 設計変更不可。 設計図書の数量≦証明数量≦設計数量 → 設計変更可。対象数量は証明数量 設計数量＜証明数量 → 設計変更可。対象数量は設計数量 （設計図書の数量：設計図書（数量総括表や図面等）に記載されている数量 設計数量：設計図書の数量にロスを加えた数量（積算上の数量） 証明数量：受注者から証明された数量）

※精算変更見込み数量を考慮すること。

換算値などを用いて明示した調達数量については、受発注者間で合意した換算値等や実際の使用量などを基に、受発注者間で協議して最終的な設計数量を決定すること。

（3）　設計変更に用いる単価は、実際の取引伝票、請求書等で確認出来た実際の購入価格とする。

（4）　別途調達経費は、直接工事費に計上するものとする。

材料費が個別に設定されている場合は、実際の購入価格に入れ替えて設計変更を行うこと。土木工事標準単価など材料費が分離できない場合は、調達検討資材の当初積算時点での実勢価格（物価資料等）と実際の購入価格の差分を計上して設計変更を行うこと。なお、当初積算時点の実勢価格（物価資料等）が掲載されていない場合は、受注者に当初積算時点の取引価格を確認の上、差分を算出すること。

（5）　本運用に基づく設計変更内容は、建設工事請負契約約款第 25 条（スライド条項）の対象外とする。

工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
本工事費					
標識		式		1	レベル1
道路土工		式		1	レベル2
残土処理工		式		1	レベル3
土砂等運搬	砂質土	m3		0.7	レベル4
残土等処分		m3		0.7	レベル4
構造物撤去工		式		1	レベル2
構造物取壊し工		式		1	レベル3
コンクリート構造物取壊し	無筋コンクリート	m3		1	レベル4
舗装版切断	アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	m		33	レベル4
舗装版破砕	アスファルト舗装版 障害等無し 舗装版厚15cm以下	m2		27	レベル4
排水構造物撤去工		式		1	レベル3
自由勾配側溝撤去	自由勾配側溝　再利用撤去	m		12	レベル4
蓋版撤去	蓋版 コンクリート・鋼製　再利用撤去	枚		8	レベル4
縁石撤去工		式		1	レベル3
歩車道境界ブロック撤去	再利用撤去	m		12	レベル4
運搬処理工		式		1	レベル3
殻運搬	アスファルト殻	m3		2	レベル4

工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
殻運搬	コンクリート殻	m3		1	レベル4
殻処分	アスファルト殻	t		4	レベル4
殻処分	コンクリート殻	t		3	レベル4
標識工		式		1	レベル2
大型標識工		式		1	レベル3
標識基礎	φ1200、φ1500	基		2	レベル4
片持標識柱	片持ち式	基		2	レベル4
標識板	案内標識	枚		2	レベル4
構造物復旧工		式		1	レベル2
側溝工		式		1	レベル3
自由勾配側溝	300×300	m		6	レベル4
自由勾配側溝（スリット側溝）	300×500	m		6	レベル4
縁石工		式		1	レベル3
歩車道境界ブロック	C種(180/210×300×600) 片斜両面R 再利用設置 RC-40	m		12	レベル4
舗装工		式		1	レベル2
アスファルト舗装工		式		1	レベル3
下層路盤(車道・路肩部)	全仕上り厚150mm 1層施工 RC-40	m2		9	レベル4
下層路盤(歩道部)	全仕上り厚100mm 1層施工 RC-40	m2		17	レベル4

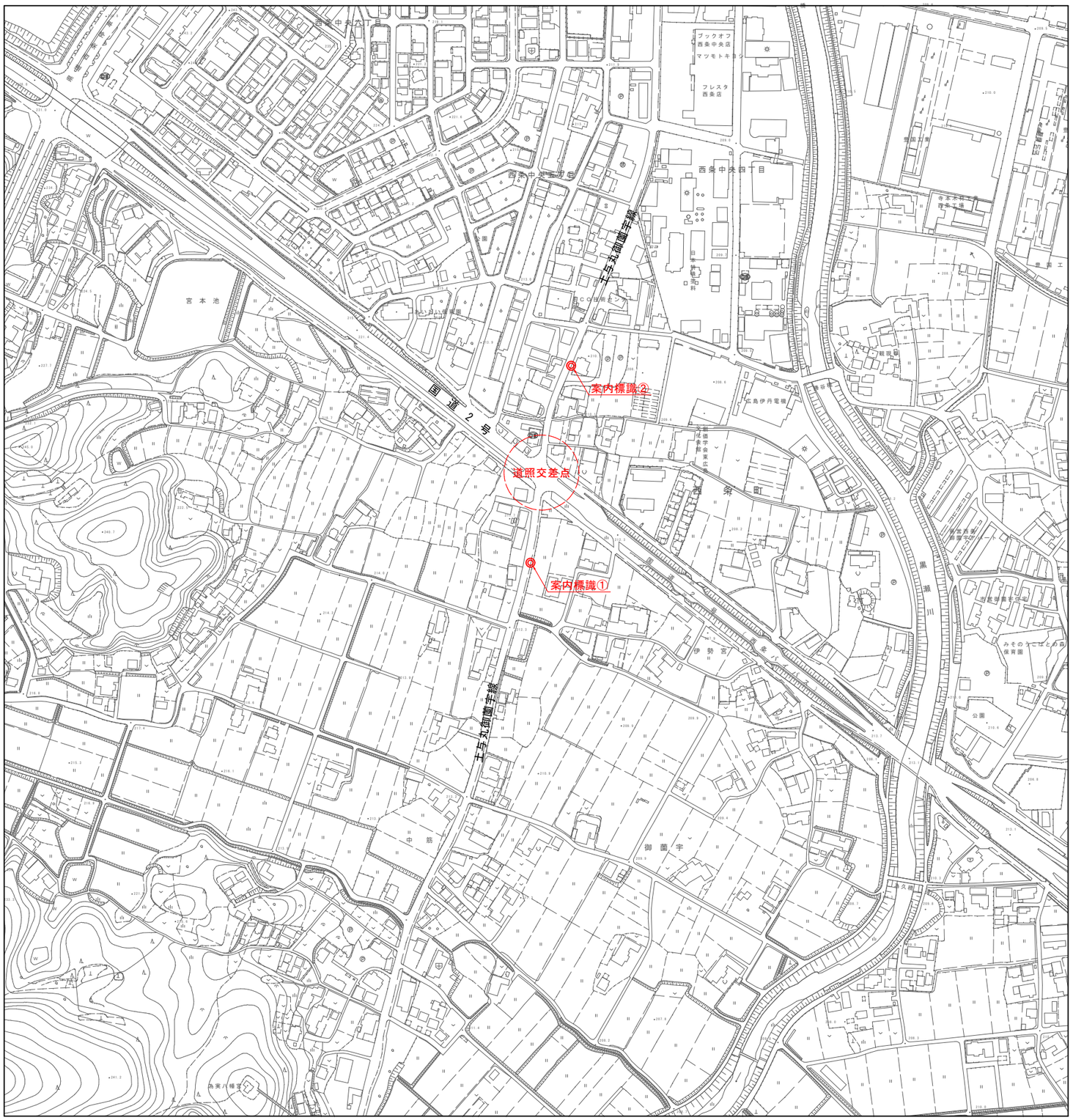
工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
上層路盤(車道・路肩部)	全仕上り厚100mm 1層施工 RM-30	m2		9	レベル4
基層(車道・路肩部)	1層当り平均仕上厚50mm 再生粗粒度アスコン(20)	m2		9	レベル4
表層(車道・路肩部)	1層当り平均仕上厚50mm 再生密粒度アスファルト混合物(20)	m2		10	レベル4
表層(歩道部)	1層当り平均仕上厚30mm 再生細粒度アスファルト混合物(13)	m2		17	レベル4
区画線工		式		1	レベル3
溶融式区画線	実線_15cm 白色	m		12	レベル4
仮設工		式		1	レベル2
土留・仮締切工		式		1	レベル3
建込簡易土留		式		1	レベル4
交通管理工		式		1	レベル3
交通誘導警備員		人		36	レベル4
＊＊直接工事費＊＊					
運搬費					
運搬費		式		1	レベル2
運搬費		式		1	レベル3
仮設材運搬費		式		1	レベル4
共通仮設費率分					
＊＊共通仮設費計＊＊					

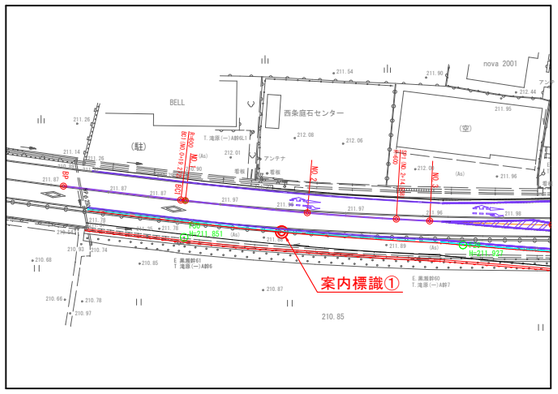
工事数量総括表

費目・工種明細など		規格1・規格2	単位		数量	備考
＊＊純工事費＊＊						
現場管理費						
＊＊工事原価＊＊						
一般管理費率分						
契約保証費						
一般管理費計						
＊＊工事価格＊＊						
＊＊消費税相当額＊＊						
＊＊工事費計＊＊						
＊＊契約保証費計＊＊						

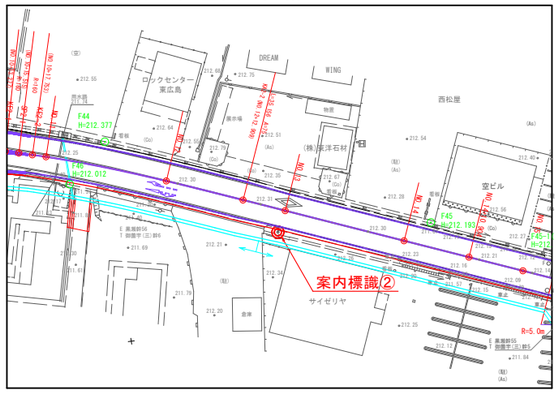
案内標識設置位置図 S=1:2500



案内標識① 詳細位置図 S=1:500



案内標識② 詳細位置図 S=1:500

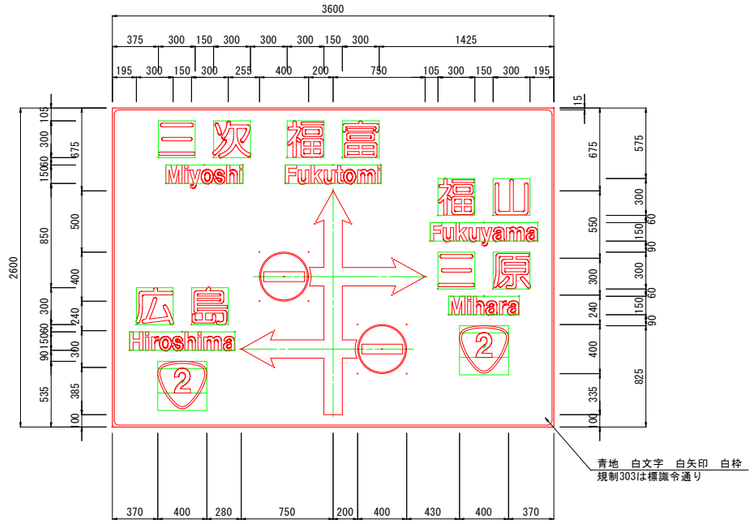


図面番号	1 / 4	縮 尺	図示
工 種	標識設置工事		
種 別	平 面 図	番号	1 / 1
路線河川名	土与丸御薗宇線		
工事箇所	東広島市西条町御薗宇、西条中央四丁目		
東 広 島 市			

案 内 標 識 ① 構 造 図

標識板レイアウト詳細図

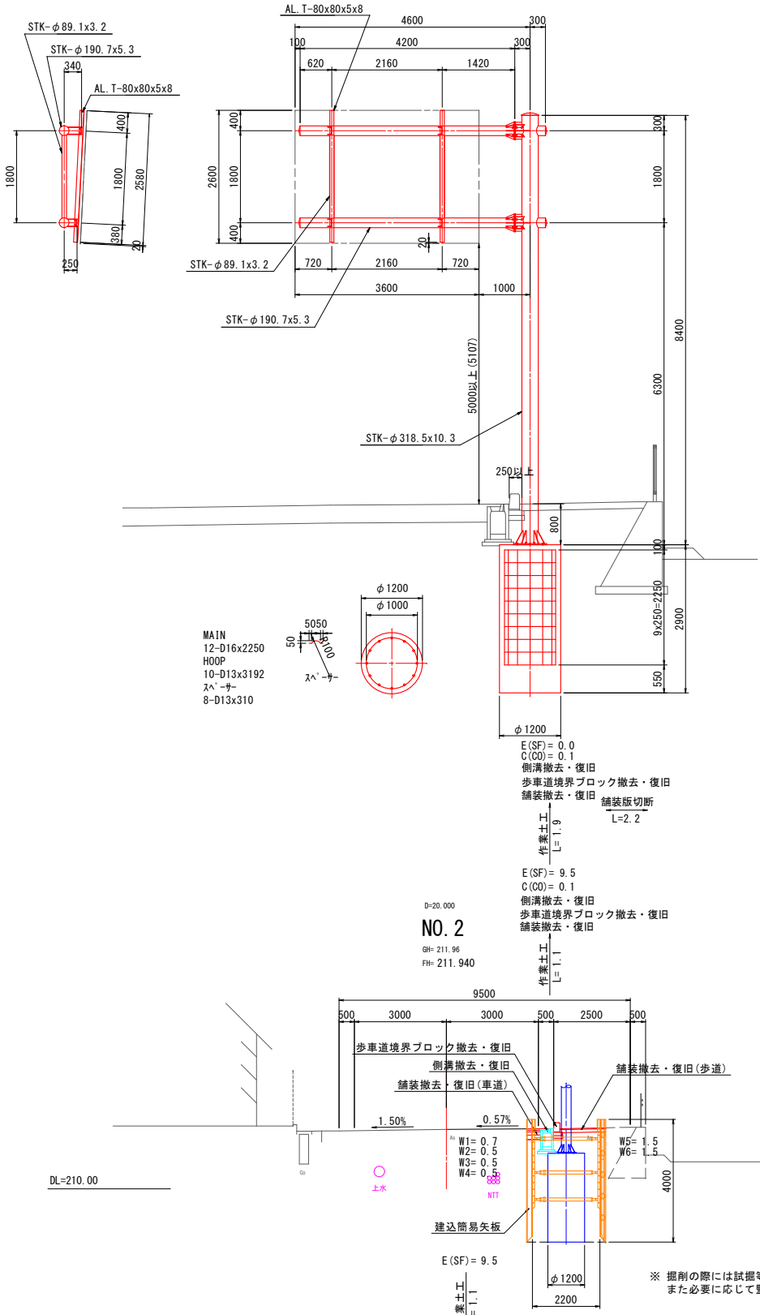
S=1:25



基　　板（アルミ）：3.0t JIS H4000 A5052P-H34
補強リブ（アルミ）：H=55 JIS H4100 A6063S-5
シ　ー　ト　種　類：カプセルプリズム型

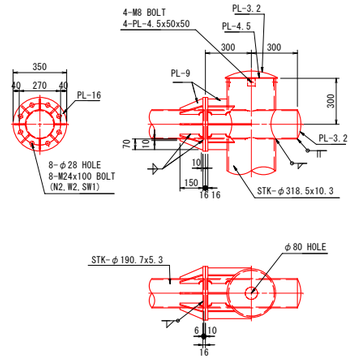
標識柱詳細図

S=1:60

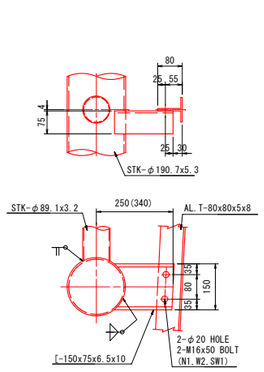


部材詳細図

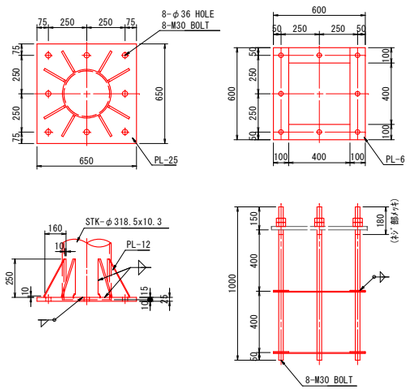
S=1:20



梁・柱の取合詳細図　S=1:20



板取付金具詳細図　S=1:10



柱脚部詳細図　S=1:20

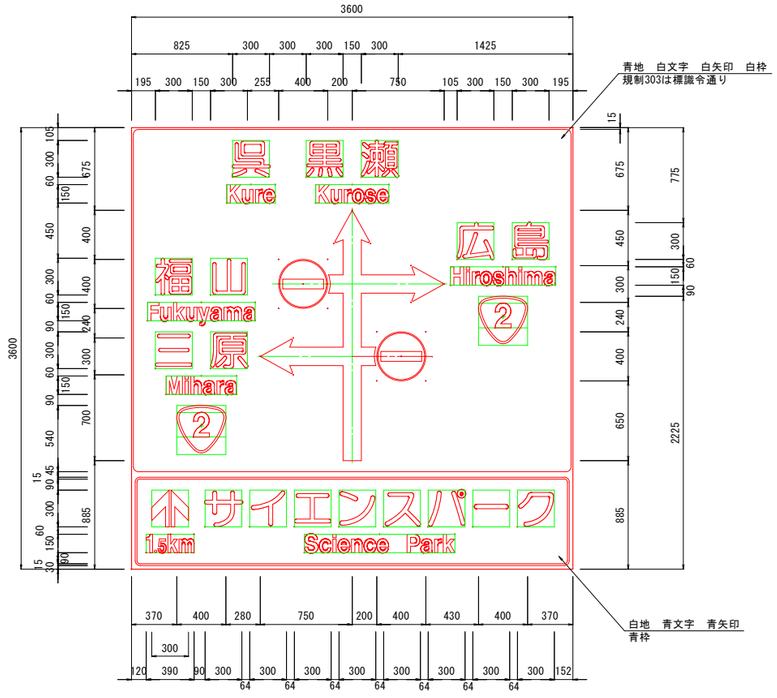
注意
(1)規格は、鋼管をSTK400、鋼板、型鋼、ボルトをSS400とする。
(2)スカラップはR=25とする。
(3)すみ肉溶接の脚長は、薄いほうの母材の厚さとする。

図面番号	2 / 4	縮　尺	図示
工　種	標識設置工事		
種　別	構　造　図	番号	1 / 2
路線河川名	土与丸御薗宇線		
工事箇所	東広島市西条町御薗宇、西条中央四丁目		
東　広　島　市			

案 内 標 識 ② 構 造 図

標識板レイアウト詳細図

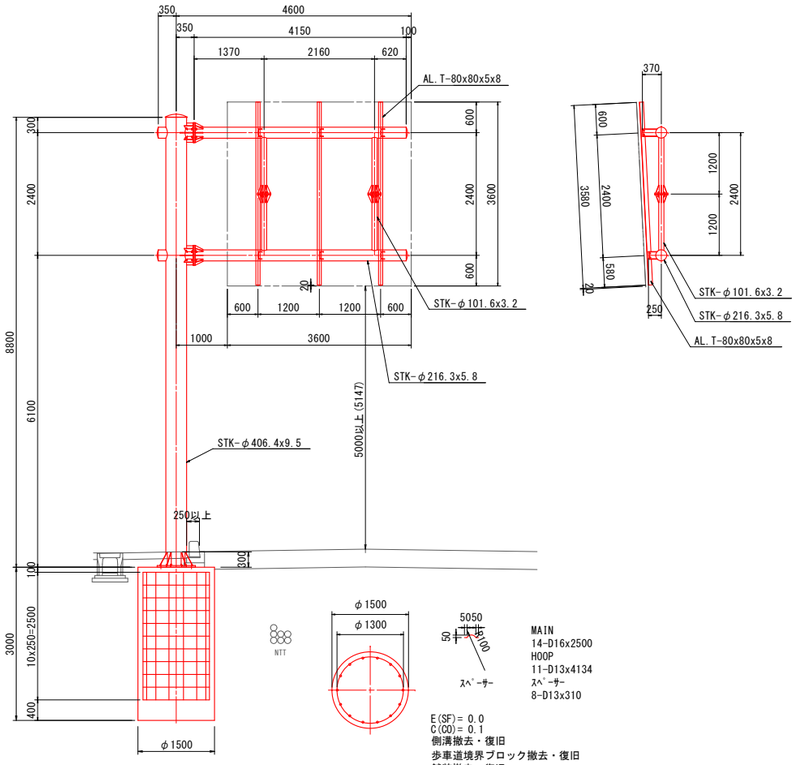
S=1:25



基　　板（アルミ）：3.0t JIS H4000 A5052P-H34
補強リブ（アルミ）：H=55 JIS H4100 A6063S-5
シ　ー　ト　種　類：カプセルプリズム型

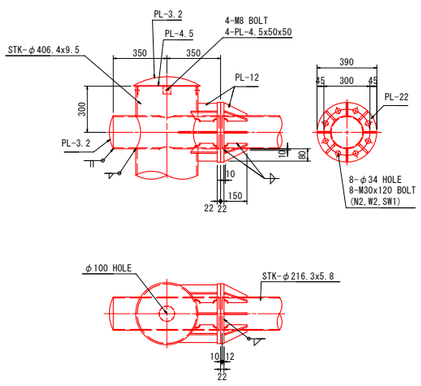
標識柱詳細図

S=1:60

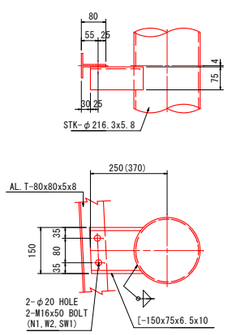


部材詳細図

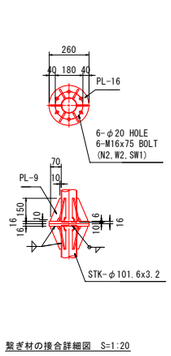
S=1:20



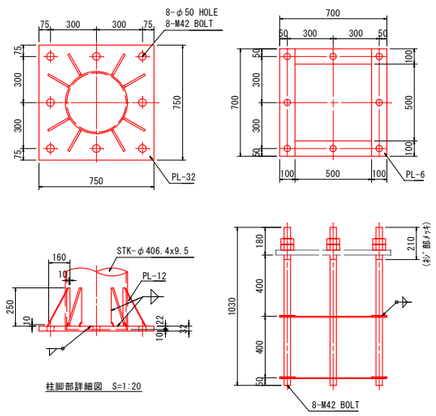
梁・柱の取合詳細図　S=1:20



板取付金具詳細図　S=1:10

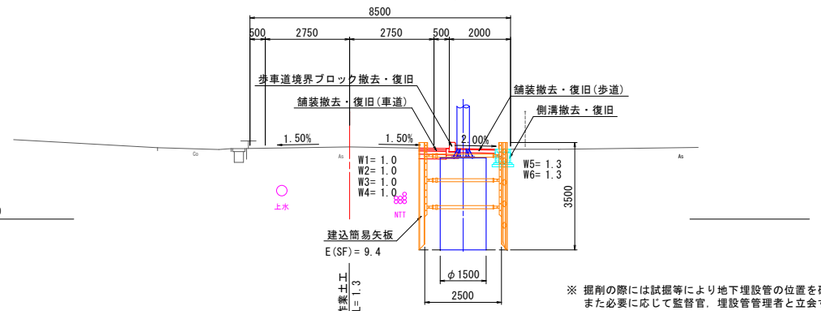


継ぎ材の接合詳細図　S=1:20



柱脚部詳細図　S=1:20

注意
(1)規格は、鋼管をSTK400、鋼板、型鋼、ボルトをSS400とする。
(2)スカラップはR=25とする。
(3)すみ肉溶接の脚長は、薄いほうの母材の厚さとする。



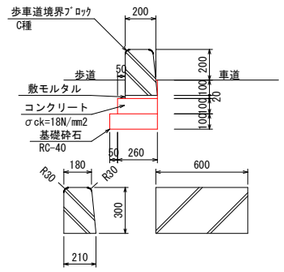
DL=210.00

※ 掘削の際には試掘等により地下埋設管の位置を確認のこと。
また必要に応じて監督官，埋設管管理者と立会すること。

図面番号	3 / 4	縮　尺	図示
工　種	標識設置工事		
種　別	構　造　図	番号	2 / 2
路線河川名	土与丸御薗宇線		
工事箇所	東広島市西条町御薗宇、西条中央四丁目		
東　広　島　市			

構 造 図

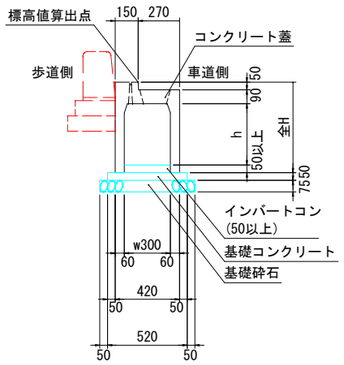
2型
BB-F200
（フラット） S=1:20

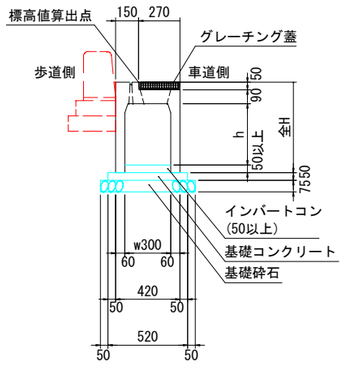


BB-F200　　10m当り材料表

種　別	規格・寸法	単位	数　量
ブロック	C種（現場流用）	個	
コンクリート	σck=18N/mm2	m3	0.260
型枠	無筋構造物	m3	2.000
基礎砕石	RC-40	m2	3.100
	t=10cm	m3	0.310
敷モルタル	1：3 （高炉B）	m3	0.042

スリット側溝　S=1:20



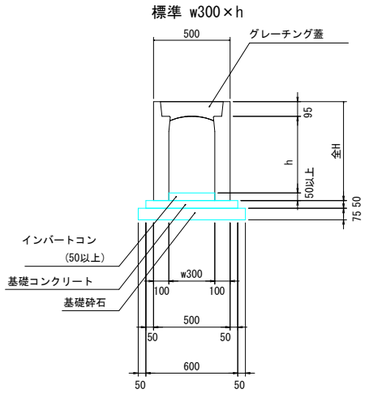


規　格	全H
w300×h400	590
w300×h500	690
w300×h600	790

スリット付自由勾配側溝材料表

名称	規格	数量	単位
インバートコンクリート	σck=18N/mm2	0.186	m3
基礎コンクリート	σck=18N/mm2	0.156	m3
同上型枠	均し基礎型枠	0.600	m2
基礎砕石	RC-40	3.720	m2

自由勾配側溝　S=1:20



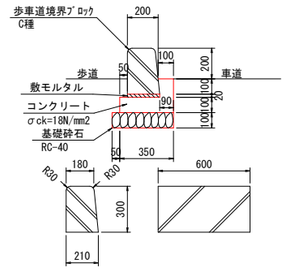
※暗渠製品は、蓋掛がありません。

規　格	全H
w300×h300	445
w300×h400	545

自由勾配側溝材料表

名称	規格	数量	単位
インバートコンクリート	σck=18N/mm2	0.090	m3
基礎コンクリート	σck=18N/mm2	0.180	m3
同上型枠	均し基礎型枠	0.600	m2
基礎砕石	RC-40	4.200	m2

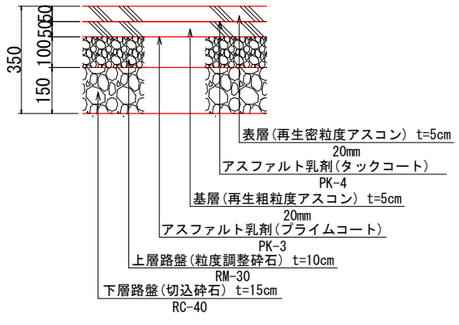
1-1型
BB-F200
（フラット）S=1:20



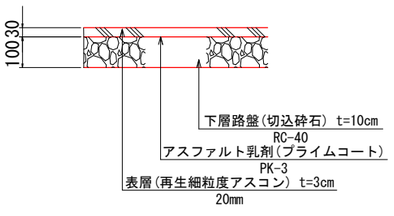
BB-F200　　10m当り材料表

種　別	規格・寸法	単位	数　量
ブロック	C種（現場流用）	個	
コンクリート	σck=18N/mm2	m3	0.463
型枠	無筋構造物	m3	3.200
基礎砕石	RC-40	m2	4.000
	t=10cm	m3	0.400
敷モルタル	1：3 （高炉B）	m3	0.042

車道舗装
S=1:10



歩道舗装
S=1:10



図面番号	4 / 4	縮　尺	図示
工　種	標識設置工事		
種　別	構　造　図	番号	3 / 3
路線河川名	土与丸御薗宇線		
工事箇所	東広島市西条町御薗宇、西条中央四丁目		
東　広　島　市			

参 考 図 書

工事名称　：　令和８年度 幹線市道整備事業

土与丸御薗宇線標識設置工事

＜注意事項＞

１　本工事は、数量公開の対象工事です。

２　この数量書は適正な積算のための参考指標として数量を示すものです。

数量は参考数量であり、設計図書ではありません。内容の如何にかかわらず、契約上の拘束をするものではありません。

３　その他

・当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、広島県制定の建設発生土処分一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとしている。搬出先としては次の施設を見込んでいる。

種別	施設の名称	所在地	運搬距離（km）
残土	(株)オハラリサイクルセンター	東広島市西条町田口 10877-15	6.1 km

・当該工事により発生する建設資材廃棄物は、広島県制定の再資源化施設一覧表に掲載されている施設に搬出するものとする。搬出先としては、次の施設を見込んでいる。

種別	施設の名称	所在地	運搬距離（km）
Co 殻（無筋）	(有)トラスト	東広島市西条町上三永 348-14	6.6 km
Co 殻（有筋）	―	―	―
As 殻	(有)トラスト	東広島市西条町上三永 348-14	6.6 km
木材	―	―	―

総括情報表

変更回数	0
適用単価地区	44 東広島市
単価適用日	00-08.09.01(0)
諸経費体系	1 公共(一般)

	当世代	前世代
工種	04 道路改良工事	
施工地域・工事場所区分	04 一般交通影響有り(2)	
復興補正区分	00 補正なし	
週休補正区分	09 閉所型・月単位	
現場事務所等の貸与区分	00 補正なし	
ＩＣＴ補正区分	00 補正なし	
冬期補正係数	00 補正なし	
緊急工事区分	00 通常工事 ０％	
前払金支出割合区分	00 補正無し	
契約保証区分	01 金銭的保証(0.04%)	

建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として，労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。

≪凡例≫

Co ･･･コンクリート　　As ･･･アスファルト
DT ･･･ダンプトラック　　BH ･･･バックホウ
CC ･･･クローラクレーン　TC ･･･トラッククレーン
RTC･･･ラフテレーンクレーン

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
標識	1	式			Y1E01　　レベル1
道路土工	1	式			Y1E0101　　レベル2
残土処理工	1	式			Y1E010110　レベル3 D=2
土砂等運搬 砂質土	0.7	m3			Y1E01011002レベル4
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) DID区間有り　距離7.0km以下(5.5km超)	0.7	m3			SPK26040002 00 単第0 -0001　表
残土等処分	0.7	m3			Y1E01011003レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
残土処分費 砂質土 (株)オハラリサイクルセンター	0.7	m3			F0000000001 00

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
構造物撤去工	1	式			Y1E0112　　レベル2
構造物取壊し工	1	式			Y1E011206　レベル3
コンクリート構造物取壊し 無筋コンクリート	1	m3			Y1E01120601レベル4
構造物とりこわし工(無筋構造物) 機械施工(大型ブレーカまたは、Co圧砕機)	1	m3			SDT00031　　00 単第0 -0002　表
舗装版切断 アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	33	m			Y1E01120602レベル4 D=2
舗装版切断 アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	33	m			SPK26040304 00 単第0 -0003　表
舗装版破砕 アスファルト舗装版 障害等無し 舗装版厚15cm以下	27	m2			Y1E01120603レベル4 D=2
舗装版破砕 アスファルト舗装版 障害等無し 舗装版厚15cm以下	27	m2			SPK26040303 00 単第0 -0004　表
排水構造物撤去工	1	式			Y1E011208　レベル3

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
自由勾配側溝撤去 自由勾配側溝　再利用撤去	12	m			Y1E01120812レベル4
再利用撤去 自由勾配側溝 L=2000_1000kg/個以下	12	m			SDT00019　00 単第0 -0005　表
蓋版撤去 蓋版 コンクリート・鋼製　再利用撤去	8	枚			Y1E01120813レベル4
再利用撤去 蓋版 コンクリート・鋼製_40kg/枚以下	8	枚			SDT00019　00 単第0 -0006　表
縁石撤去工	1	式			Y1E011213　レベル3
歩車道境界ブロック撤去 再利用撤去	12	m			Y1E01121301レベル4 D=2
歩車道境界ブロック撤去 再利用	12	m			SPK26040289 00 単第0 -0007　表
運搬処理工	1	式			Y1E011216　レベル3 D=2
殻運搬 アスファルト殻	2	m3			Y1E01121601レベル4

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
殻運搬 舗装版破砕 DID区間有り 運搬距離10.5km以下(6.0km超)	2	m3			SPK26040155 00 単第0 -0008 表
殻運搬 コンクリート殻	1	m3			Y1E01121601レベル4
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離8.0km以下(5.7km超)	1	m3			SPK26040155 00 単第0 -0009 表
殻処分 アスファルト殻	4	t			Y1E01121602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
殻処分費 アスファルト殻 (有)トラスト	4	t			F0000000002 00
殻処分 コンクリート殻	3	t			Y1E01121602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
殻処分費 コンクリート殻 (有)トラスト	3	t			F0000000003 00

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
標識工	1	式			Y1E0209　　レベル2
大型標識工	1	式			Y1E020902　レベル3
標識基礎 φ1200、φ1500	2	基			Y1E02090201レベル4
標識基礎設置 φ1200×H2900	1	基			V0000000001 00 単第0 -0010　表
標識基礎設置 φ1500×H3000	1	基			V0000000002 00 単第0 -0012　表
片持標識柱 片持ち式	2	基			Y1E02090202レベル4 D=2
標識柱設置(片持式・門型式) 片持式 1基当りの総質量_400kg以上 [規]2基	2	基			SS000069　　00 単第0 -0014　表
【鋼橋門扉等工事原価】 共通仮設費[対象外]，現場管理費[対象外] 一般管理費[対象]					#0044
亜鉛めっき柱(オーバーハング) F型・逆L型・T型 ベースプレート付,鋼管	2.64	t			TH000970　　00

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
標識板 案内標識	2	枚			Y1E02090204レベル4 D=2
標識板設置 案内標識(新設)(路線番号は除く) 一枚当りの面積2.0m2以上 [規]10m2未満	9.4	m2			SS000223　00 単第0 -0015　表
標識板設置 案内標識(新設)(路線番号は除く) 一枚当りの面積2.0m2以上 [規]10m2以上	13	m2			SS000223　00 単第0 -0016　表
構造物復旧工	1	式			Y1E0113　レベル2
側溝工	1	式			Y1E010903　レベル3
自由勾配側溝 300×300	6	m			Y1A01111404レベル4
自由勾配側溝 材料別途 1000≧重量	6	m			SDT00015　00 単第0 -0017　表
自由勾配側溝（スリット側溝） 300×500	6	m			Y1A01111404レベル4
自由勾配側溝 材料別途 1000≧重量	6	m			SDT00015　00 単第0 -0018　表

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
縁石工	1	式			Y1E011301　レベル3
歩車道境界ブロック C種(180/210×300×600) 片斜両面R 再利用設置 RC-40	12	m			Y1A01111601レベル4 D=2
歩車道境界ブロック C種(180/210×300×600) 片斜両面R 再利用設置 RC-40 養生工有り	12	m			SPK26040287 00 単第0 -0019　表
舗装工	1	式			Y1E0114　　レベル2
アスファルト舗装工	1	式			Y1A011106　レベル3 D=2
下層路盤(車道・路肩部) 全仕上り厚150mm 1層施工 RC-40	9	m2			Y1A01110601レベル4
下層路盤(車道・路肩部) 全仕上り厚150mm 1層施工 RC-40	9	m2			SPK26040232 00 単第0 -0020　表
下層路盤(歩道部) 全仕上り厚100mm 1層施工 RC-40	17	m2			Y1A01110602レベル4
下層路盤(歩道部) 全仕上り厚100mm 1層施工 RC-40	17	m2			SPK26040233 00 単第0 -0021　表

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
上層路盤(車道・路肩部) 全仕上り厚100㎜ 1層施工 RM-30	9	m2			Y1A01110603レベル4
上層路盤(車道・路肩部) RM-30 全仕上り厚100㎜ 1層施工	9	m2			SPK26040234 00 単第0 -0022 表
基層(車道・路肩部) 1層当り平均仕上厚50㎜ 再生粗粒度アスコン(20)	9	m2			Y1A01110605レベル4
基層(車道・路肩部) 平均幅員1.4m未満(1層平均50㎜以下) 1層当り平均仕上厚50㎜	9	m2			SPK26040239 00 単第0 -0023 表
表層(車道・路肩部) 1層当り平均仕上厚50㎜ 再生密粒度アスファルト混合物(20)	10	m2			Y1A01110609レベル4
表層(車道・路肩部) 平均幅員1.4m未満(1層平均50㎜以下) 1層当り平均仕上厚50㎜	10	m2			SPK26040241 00 単第0 -0024 表
表層(歩道部) 1層当り平均仕上厚30㎜ 再生細粒度アスファルト混合物(13)	17	m2			Y1A01110610レベル4
表層(歩道部) 平均幅員1.4m未満(1層平均50㎜以下) 1層当り平均仕上厚30㎜	17	m2			SPK26040244 00 単第0 -0025 表
区画線工	1	式			Y1A011117 レベル3

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
溶融式区画線 実線_15cm 白色	12	m			Y1A01111701レベル4
区画線設置(溶融式) 実線_15cm	12	m			SDT00001　00 単第0 -0026　表
仮設工	1	式			Y1E0115　レベル2
土留・仮締切工	1	式			Y1E011504　レベル3 D=2
建込簡易土留	1	式			Y1E01150404レベル4
建込工(両側分) 掘削深 3.5m以下	6	m			SG1D0032001 00 単第0 -0027　表
建込工(両側分) 掘削深 4.0m以下	6	m			SG1D0032001 00 単第0 -0029　表
引抜工(両側分) 掘削深 3.5m以下	6	m			SG1D0032002 00 単第0 -0031　表
引抜工(両側分) 掘削深 4.0m以下	6	m			SG1D0032002 00 単第0 -0032　表

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
建込簡易土留材賃料	1	式			F0000000004 00
交通管理工	1	式			Y1E011521 レベル3 D=2
交通誘導警備員	36	人			Y1E01152101レベル4
交通誘導警備員B 設計労務単価の補正割増し(1.14)	36	人			R0369 00
＊＊直接工事費＊＊ #0020計=支給品等(材料),無償貸付					
運搬費					Z0004
運搬費	1	式			YZZ04 レベル2
運搬費	1	式			YZZ04001 レベル3
仮設材運搬費	1	式			YZZ04001004レベル4 D=2

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
仮設材等(鋼矢板,H鋼,覆工板,敷鉄板等)運搬 運搬距離 2.6㎞ 製品長 12m以内	1	式			S1000007　00 単第0 -0033　表
共通仮設費率分					Z0019
計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊共通仮設費計＊＊					
＊＊純工事費＊＊					
現場管理費 計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊工事原価＊＊					
一般管理費率分 計算情報…… 対象額…… 率……					前払補正率…
契約保証費 計算情報…… 対象額…… 率……					当初請対額 当初対象額

本工事費　内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
一般管理費計					
＊＊工事価格＊＊					
＊＊消費税相当額＊＊ 計算情報…… 対象額…… 率……					
＊＊工事費計＊＊					
＊＊契約保証費計＊＊					

施工単価表

土砂等運搬　　SPK26040002　　単第0 -0001　表

小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)　　DID区間有り　距離7.0km以下(5.5km超)　　1　　m3　　当り

機械構成比:　25.12%　　労務構成比:　63.12%　　材料構成比:　11.76%　　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価:　2,415.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級 通称4t積級	25.12%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 通称4t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00017T1 MTPT00017T1
運転手(一般) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	63.12%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	11.76%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2　小規模 C=1　土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=31　距離7.0km以下(5.5km超)			B=5　バックホウ B容量0.28m3 D=2　DID区間有り		

施工単価表

構造物とりこわし工(無筋構造物)　SDT00031　単第0 -0002　表

機械施工(大型ブレーカまたは、Co圧砕機)　1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
昼間_無筋構造物【手間のみ】 機械施工 時間的制約著しく受ける	1.000	m3			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=1　昼間施工 C=1　-			B=1　機械施工(大型ブレーカまたは、Co圧砕機) D=3　時間的制約を著しく受ける		

施工単価表

舗装版切断　　SPK26040304　　単第0 -0003　表

アスファルト舗装版　　アスファルト舗装版厚15cm以下　　1　m　当り

機械構成比: 14.40%　労務構成比: 58.90%　材料構成比: 26.70%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 731.83000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッタ バキューム式(超低騒音型)･湿式･E駆動 通称(切削深)20cm級ブレード径φ56cm	9.80%		コンクリートカッタ バキューム式(超低騒音型)・湿式・E駆動 通称(切削深)20cm級 ブレード径φ56cm		MTPC00164 MTPT00164
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	20.20%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	10.89%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	9.00%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
コンクリートカッタブレード 自走式切断機用 径45cm(18インチ)	22.47%		コンクリートカッタブレード 径18インチ		TTPC00394 TTPT00394
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	2.88%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
その他(材料)			その他(材料)		EZ009

施工単価表

舗装版切断　　SPK26040304　　単第0 -0003　表

アスファルト舗装版　　アスファルト舗装版厚15cm以下　　1　m　当り

機械構成比: 14.40%　労務構成比: 58.90%　材料構成比: 26.70%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 731.83000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
積算単価			積算単価		EP001
A=1 アスファルト舗装版 E=1 -(全ての費用)			B=1 アスファルト舗装版厚15cm以下		

施工単価表

舗装版破砕　　SPK26040303　　単第0 -0004　表

アスファルト舗装版　　障害等無し 舗装版厚15cm以下　　1　m2　当り

機械構成比: 12.28%　労務構成比: 81.66%　材料構成比: 6.06%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 227.41000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>後方超小旋回バックホウ(クローラ型) 山積0.45m3(平積0.35m3) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	12.28%		バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型 バケット容量0.45m3		KTPC00066 KTPT00066
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	29.51%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	27.76%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	24.39%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	6.06%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 アスファルト舗装版 C=1 騒音振動対策不要 F=1 積込作業有り			B=1 障害等無し D=1 舗装版厚15cm以下 G=1 -(全ての費用)		

施工単価表

再利用撤去　　SDT00019　　単第0 -0005　表

自由勾配側溝 L=2000_1000kg/個以下　　1　m　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
昼間_U型側溝【手間のみ】 L=2000_1000kg/個以下 時間的制約著しく受ける	1.000	m			
1m当り		m			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			
A=1　昼間施工 C=3　L=2000_1000kg/個以下 E=1　-			B=1　U型側溝 D=3　時間的制約を著しく受ける F=1　-		

施工単価表

再利用撤去　　SDT00019　　単第0 -0006　表

蓋版 コンクリート・鋼製_40kg/枚以下　　1　　枚　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
昼間_蓋版【手間のみ】 コンクリート・鋼製_40kg/枚以下 時間的制約著しく受ける	1.000	枚			
1枚当り		枚			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	枚			
A=1　昼間施工 C=6　コンクリート・鋼製_40kg/枚以下 F=1　-			B=2　蓋版 D=3　時間的制約を著しく受ける		

施工単価表

歩車道境界ブロック撤去　　SPK26040289　　単第0 -0007　表

再利用　　1　m　当り

機械構成比: 3.76%　労務構成比: 94.75%　材料構成比: 1.49%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 1,546.40000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>超小旋回バックホウ(クローラ型) 山積0.22m3(平積0.16) 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	3.76%		小型バックホウ(クローラ型) 超小旋回型 バケット容量0.22m3		KTPC00002 KTPT00002
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	30.18%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	18.22%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	17.15%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	16.82%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
その他(労務)			その他(労務)		ER009
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	1.49%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2　再利用					

施工単価表

歩車道境界ブロック撤去　　SPK26040289　　単第0 -0007　表

再利用　　1　m　当り

機械構成比: 3.76%　労務構成比: 94.75%　材料構成比: 1.49%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 1,546.40000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考

施工単価表

殻運搬　　SPK26040155　　単第0 -0008　表

舗装版破砕　　DID区間有り　運搬距離10.5km以下(6.0km超)　　1　　m3　　当り

機械構成比:　42.27%　　労務構成比:　41.18%　　材料構成比:　16.55%　　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価:　3,768.10000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 通称10t積級	42.27%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 通称10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	41.18%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	16.55%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=3　舗装版破砕 C=2　DID区間有り E=1　-(全ての費用)			B=3　機械積込(騒音対策不要,舗装版厚15cm以下) D=42　運搬距離10.5km以下(6.0km超)		

施工単価表

殻運搬　　SPK26040155　　単第0 -0009　表

Co(無筋)構造物とりこわし　　DID区間有り 運搬距離8.0km以下(5.7km超)　　1　　m3　　当り

機械構成比:　39.03%　労務構成比:　46.18%　材料構成比:　14.79%　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価:　1,815.40000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 通称10t積級	39.03%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 通称10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	46.18%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	14.79%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1　Co(無筋)構造物とりこわし C=2　DID区間有り E=1　-(全ての費用)			B=1　機械積込 D=34　運搬距離8.0km以下(5.7km超)		

施工単価表

標識基礎設置　　V0000000001　　単第0 -0010　表

φ1200×H2900　　1　基　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
標識基礎設置(片持式・門型式) 標識柱1基当り4.0m3未満 -	3.28	m3			単第0-0011　表
[加算額]アンカーボルトの材料価格	71.2	kg			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	基			

施工単価表

標識基礎設置(片持式・門型式)　SS000221　単第0 -0011　表

標識柱1基当り4.0m3未満　-　1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
標識基礎設置【材工共】 標識柱1基あたり4.0m3未満	1.000	m3			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=1　標識柱1基当り4.0m3未満 C=1　- E=1　-			B=2　時間的制約を受ける場合 D=1　-		

施工単価表

標識基礎設置　　V0000000002　　単第0 -0012　表

φ1500×H3000　　1　基　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
標識基礎設置(片持式・門型式) 標識柱1基当り4.0m3以上6.0m3未満 -	5.30	m3			単第0-0013　表
[加算額]アンカーボルトの材料価格	127.8	kg			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	基			

施工単価表

標識基礎設置(片持式・門型式)　SS000221　単第0 -0013　表

標識柱1基当り4.0m3以上6.0m3未満　-　1　m3　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
標識基礎設置【材工共】 標識柱1基あたり4.0m3以上6.0m3未満	1.000	m3			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m3			
A=2　標識柱1基当り4.0m3以上6.0m3未満 C=1　- E=1　-			B=2　時間的制約を受ける場合 D=1　-		

施工単価表

標識柱設置(片持式・門型式)　SS000069　単第0 -0014　表

片持式 1基当りの総質量_400kg以上　[規]2基　1　基　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
標識柱設置【手間のみ】 片持式 1基あたり400kg以上	1.000	基			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	基			
A=1　片持式 C=2　[規]2基			B=2　1基当りの総質量_400kg以上 E=1　-		

施工単価表

標識板設置　　SS000223　　単第0 -0015　表

案内標識(新設)(路線番号は除く)　　一枚当りの面積2.0m2以上 [規]10m2未満　　1　m2　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
標識板設置(案内標識)【材工共】 カプセルプリズム・カプセルレンズ 1枚あたり2.0m2以上	1.000	m2			
諸雑費	1	式			
1m2当り		m2			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m2			
A=1　案内標識(新設)(路線番号は除く) C=2　一枚当りの面積2.0m2以上 F=1　-			B=2　カプセルプリズム・カプセルレンズ D=2　[規]10m2未満		

施工単価表

標識板設置　　SS000223　　単第0 -0016　表

案内標識(新設)(路線番号は除く)　　一枚当りの面積2.0m2以上 [規]10m2以上　　1　　m2　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
標識板設置(案内標識)【材工共】 カプセルプリズム・カプセルレンズ 1枚あたり2.0m2以上	1.000	m2			
諸雑費	1	式			
1m2当り		m2			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m2			
A=1　案内標識(新設)(路線番号は除く) C=2　一枚当りの面積2.0m2以上 E=1　-			B=2　カプセルプリズム・カプセルレンズ D=1　[規]10m2以上 F=1　-		

施工単価表

自由勾配側溝　　SDT00015　　単第0 -0017　表

材料別途 1000≧重量　　1　　m　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
昼間_自由勾配側溝【手間のみ】 L=2000_1000kg/個以下 時間的制約著しく受ける	1.000	m			
再生クラッシャラン 40～0mm	0.063	m3			
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度18,スランプ8,粗骨材40 W/C(60%),種別(高炉)	0.048	m3			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			
A=1　昼間施工 D=1　1000≧重量 F=1　-			B=51　材料別途 E=3　時間的制約を著しく受ける G=2　RC-40		
I=0.525　基礎砕石の設計数量(m3/10m) L=0.45　基礎及び底部Coの設計数量(m3/10m)			J=1　18-8-40BB M=1　-		

施工単価表

自由勾配側溝　　SDT00015　　単第0 -0018　表

材料別途 1000≧重量　　1　　m　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
昼間_自由勾配側溝【手間のみ】 L=2000_1000kg/個以下 時間的制約著しく受ける	1.000	m			
再生クラッシャラン 40～0mm	0.056	m3			
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度18,スランプ8,粗骨材40 W/C(60%),種別(高炉)	0.060	m3			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			
A=1　昼間施工 D=1　1000≧重量 F=1　-			B=51　材料別途 E=3　時間的制約を著しく受ける G=2　RC-40		
I=0.465　基礎砕石の設計数量(m3/10m) L=0.57　基礎及び底部Coの設計数量(m3/10m)			J=1　18-8-40BB M=1　-		

施工単価表

歩車道境界ブロック　　SPK26040287　　単第0 -0019　表

C種(180/210×300×600) 片斜両面R　　再利用設置 RC-40 養生工有り　　1　m　当り

機械構成比: 2.29%　労務構成比: 83.10%　材料構成比: 14.61%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 6,956.70000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>後方超小旋回バックホウ(クローラ型) 山積0.09m3(平積0.07)吊能力0.9t 排出ガス対策型(第1,2,3次基準値)低騒音	1.90%		小型バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・クレーン機能付 バケット容量0.09m3 吊能力0.9t		KTPC00053 KTPT00053
<賃>バックホウ(クローラ型) 山積0.8m3(平積0.6) 排1～3,2011,2014	0.39%		バックホウ(クローラ型) バケット容量0.8m3		KTPC00018 KTPT00018
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	27.34%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	22.60%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	13.99%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
型わく工 設計労務単価の補正割増し(1.14)	11.84%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート指定品 呼び強度18,スランプ8,粗骨材40 W/C(60%),種別(高炉)	12.76%		生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%		TTPCD0010 TTPT00003
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	1.03%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013

施工単価表

歩車道境界ブロック　　SPK26040287　　単第0 -0019　表

C種(180/210×300×600) 片斜両面R　　再利用設置 RC-40 養生工有り　　1　m　当り

機械構成比: 2.29%　労務構成比: 83.10%　材料構成比: 14.61%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 6,956.70000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
再生クラッシャラン 40～0mm	0.82%		再生クラッシャーラン RC-40		TTPC00008 TTPT00008
積算単価			積算単価		E9999
A=2 再利用設置 E=1 RC-40 G=2 養生工有り			B=5 C種(180/210×300×600) 片斜両面R F=2 18-8-40BB H=1 -		

施工単価表

下層路盤(車道・路肩部)　SPK26040232　単第0 -0020　表

全仕上り厚150㎜ 1層施工　RC-40　1　m2　当り

機械構成比: 5.50%　労務構成比: 18.62%　材料構成比: 75.88%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 1,337.90000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
モータグレーダ 土工用・排2014 ブレード幅3.1m	3.81%		モータグレーダ 土工用・排2014 ブレード幅3.1m		MTPC00176 MTPT00176
<賃>ロードローラ(マカダム) 質量10t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)	0.47%		ロードローラ マカダム 運転質量10t		KTPC00047 KTPT00047
<賃>タイヤローラ 質量13～14t 排出ガス対策型(2014年規制)普通・超低騒音	0.46%		タイヤローラ 運転質量13～14t		KTPC00074 KTPT00074
その他(機械)			その他(機械)		EK009
運転手(特殊) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	8.20%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	3.00%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	2.68%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	2.17%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工単価表

下層路盤(車道・路肩部)　SPK26040232　単第0 -0020　表

全仕上り厚150㎜ 1層施工　RC-40　1　m2　当り

機械構成比: 5.50%　労務構成比: 18.62%　材料構成比: 75.88%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 1,337.90000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
再生クラッシャラン 40～0㎜	74.09%		クラッシャラン 40～0㎜ [標準数量]全仕上り厚150㎜		TTPC00008 TTPT00346
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	1.55%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=150　全仕上り厚(㎜) D=1　-(全ての費用)			B=4　RC-40		
【路盤材単価】 全仕上り厚(㎜)/1000*路盤材単価(円) 全仕上り厚(㎜):150.000(㎜)					

施工単価表

下層路盤(歩道部)　　SPK26040233　　単第0 -0021　表

全仕上り厚100㎜ 1層施工　　RC-40　　1　　m2　　当り

機械構成比:　4.82%　　労務構成比:　76.32%　　材料構成比:　18.86%　　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価:　889.38000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・超低騒音型・排3 バケット容量0.09m3	2.88%		小型バックホウ(クローラ型) 後方超小旋回型・超低騒音型・排3 バケット容量0.09m3		MTPC00169 MTPT00169
<賃>振動ローラ(搭乗・コンバインド式) 質量3～4t 排出ガス対策型(第2,3次基準値)低騒音	1.71%		振動ローラ(舗装用) 搭乗・コンバインド式 運転質量3～4t		KTPC00009 KTPT00009
その他(機械)			その他(機械)		EK009
運転手(特殊) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	27.48%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	16.13%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	15.97%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	13.11%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
再生クラッシャラン 40～0㎜	16.70%		再生クラッシャーラン RC-40 [標準数量]全仕上り厚100㎜		TTPC00008 TTPT00352

施工単価表

下層路盤(歩道部)　SPK26040233　単第0 -0021　表

全仕上り厚100㎜ 1層施工　RC-40　1　m2　当り

機械構成比: 4.82%　労務構成比: 76.32%　材料構成比: 18.86%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 889.38000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	2.06%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=100　全仕上り厚(㎜) D=1　-(全ての費用)			B=4　RC-40		
【路盤材単価】 全仕上り厚(㎜)/1000*路盤材単価(円) 全仕上り厚(㎜):100.000(㎜)					

施工単価表

上層路盤(車道・路肩部)　SPK26040234　単第0 -0022　表

RM-30　全仕上り厚100㎜ 1層施工　1　m2　当り

機械構成比: 11.39%　労務構成比: 38.57%　材料構成比: 50.04%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 646.43000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
モータグレーダ 土工用・排2014 ブレード幅3.1m	7.88%		モータグレーダ 土工用・排2014 ブレード幅3.1m		MTPC00176 MTPT00176
<賃>ロードローラ(マカダム) 質量10t 排出ガス対策型(第1,2次基準値)	0.98%		ロードローラ マカダム 運転質量10t		KTPC00047 KTPT00047
<賃>タイヤローラ 質量13～14t 排出ガス対策型(2014年規制)普通・超低騒音	0.96%		タイヤローラ 運転質量13～14t		KTPC00074 KTPT00074
その他(機械)			その他(機械)		EK009
運転手(特殊) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	16.98%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	6.21%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	5.55%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	4.51%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工単価表

上層路盤(車道・路肩部)　　SPK26040234　　単第0 -0022　表

RM-30　　全仕上り厚100㎜ 1層施工　　1　　m2　　当り

機械構成比:　11.39%　労務構成比:　38.57%　材料構成比:　50.04%　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価:　646.43000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
再生粒度調整砕石 30～0㎜	46.32%		再生粒度調整砕石 RM-40 [標準数量]全仕上り厚150㎜		TTPC00010 TTPT00357
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	3.21%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=5　RM-30 H=1　-(全ての費用)			E=100　全仕上り厚(㎜)		
【路盤材単価】 全仕上り厚(㎜)/1000*路盤材単価(円) 全仕上り厚(㎜):100.000(㎜)					

施工単価表

基層(車道・路肩部)　SPK26040239　単第0 -0023　表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)　1層当り平均仕上厚50mm　1　m2　当り

機械構成比: 0.45%　労務構成比: 49.15%　材料構成比: 50.40%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 2,751.80000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5～0.6t	0.25%		振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5～0.6t		MTPC00047 MTPT00047
振動コンパクタ 前進型 通称40～60kg級	0.14%		振動コンパクタ 前進型 通称40～60kg級		MTPC00049 MTPT00049
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	21.73%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	15.58%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	4.70%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
再生加熱アスファルト混合物 再生粗粒度(20)	45.06%		再生粗粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		TTPC00023 TTPT00281
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用	5.08%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用		TTPC00026 TTPT00026

施工単価表

基層(車道・路肩部)　SPK26040239　単第0 -0023　表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)　1層当り平均仕上厚50mm　1　m2　当り

機械構成比: 0.45%　労務構成比: 49.15%　材料構成比: 50.40%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 2,751.80000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	0.19%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	0.04%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) C=8 再生粗粒度アスコン(20) G=1 - I=1 -(全ての費用)			B=50 1層当り平均仕上り厚(mm) E=2 PK-3 H=1 -		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):50.000(mm)					

施工単価表

表層(車道・路肩部)　SPK26040241　単第0 -0024　表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)　1層当り平均仕上厚50mm　1　m2　当り

機械構成比: 0.43%　労務構成比: 45.97%　材料構成比: 53.60%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 2,942.60000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5～0.6t	0.24%		振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5～0.6t		MTPC00047 MTPT00047
振動コンパクタ 前進型 通称40～60kg級	0.13%		振動コンパクタ 前進型 通称40～60kg級		MTPC00049 MTPT00049
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	20.32%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	14.57%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	4.40%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
再生加熱アスファルト混合物 再生密粒度(20)	51.74%		密粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		TTPCD0038 TTPT00284
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用	1.62%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用		TTPC00027 TTPT00027

施工単価表

表層(車道・路肩部)　SPK26040241　単第0 -0024　表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)　1層当り平均仕上厚50mm　1　m2　当り

機械構成比: 0.43%　労務構成比: 45.97%　材料構成比: 53.60%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 2,942.60000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	0.17%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	0.04%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) C=6 再生密粒度アスファルト混合物(20) G=1 - I=1 -(全ての費用)			B=50 1層当り平均仕上り厚(mm) E=1 PK-4 H=1 -		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):50.000(mm)					

施工単価表

表層(歩道部)　　SPK26040244　　単第0 -0025　表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)　　1層当り平均仕上厚30mm　　1　m2　当り

機械構成比: 0.40%　労務構成比: 48.31%　材料構成比: 51.29%　市場単価構成比: 0.00%　標準単価： 2,552.60000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5～0.6t	0.27%		振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5～0.6t		MTPC00047 MTPT00047
振動コンパクタ 前進型 通称40～60kg級	0.07%		振動コンパクタ 前進型 通称40～60kg級		MTPC00049 MTPT00049
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	18.74%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	16.79%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	5.07%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
再生加熱アスファルト混合物 再生細粒度(13)	45.66%		細粒度As混合物(13) [標準数量]平均仕上り厚40mm		TTPC00025 TTPT00294
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用	5.47%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-3プライムコート用		TTPC00026 TTPT00026

施工単価表

表層(歩道部)　　SPK26040244　　単第0 -0025　表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)　　1層当り平均仕上厚30mm　　1　　m2　　当り

機械構成比:　0.40%　　労務構成比:　48.31%　　材料構成比:　51.29%　　市場単価構成比:　0.00%　　標準単価:　2,552.60000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	0.10%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	0.04%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1　平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) C=10　再生細粒度アスファルト混合物(13) G=1　- I=1　-(全ての費用)			B=30　1層当り平均仕上り厚(mm) E=2　PK-3 H=1　-		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):30.000(mm)					

施工単価表

区画線設置(溶融式)　SDT00001　単第0 -0026　表

実線_15cm　1000　m　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
昼間_溶融式(手動)【手間のみ】 実線_15cm 時間的制約著しく受ける	1,000.000	m			
トラフィックペイント(JISK5665_3種1号) 溶融型(紛体状)ガラスビーズ含有量15～18% 白	598.500	kg			
ガラスビーズ(JISR3301_1号) 粒度0.106～0.850mm	26.250	kg			
プライマー トラフィックペイント接着用	26.250	kg			
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	49.350	L			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　合計　＊＊＊	1,000	m			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			
A=1　昼間施工 C=1　実線_15cm E=1　アスファルトに設置の場合			B=1　白色 D=1　塗布厚t=1.5mm F=3　時間的制約を著しく受ける		
G=1　- I=1　-			H=1　- J=1　-(全ての費用)		

施工単価表

区画線設置(溶融式)　SDT00001　単第0 -0026　表

実線_15cm　1000　m　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考

施工単価表

建込工(両側分)　　SG1D0032001　　単第0 -0027　表

掘削深 3.5m以下　　1　m　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.31	人			
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.31	人			
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.63	人			
機-1_バックホウ(クローラ型)運転 [標準型]B容量0.28m3 排出ガス対策型2次基準	1.7	時間			単第0-0028　表
諸雑費	1	式			
1m当り(計/10m)					
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			
A=5　　掘削深 3.5m以下					

施工単価表

機-1_バックホウ(クローラ型)運転　　S9006　　単第0 -0028　表

[標準型]B容量0.28m3　　排出ガス対策型2次基準　　1　　時間　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
運転手(特殊) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.17	人			
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	5.90	L			
バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 バケット容量0.28m3	1	時間			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	時間			
A=1　[標準型]B容量0.28m3 C=0　労務単価の夜間等割増率 E=0　運転労務数量（人/h）標準=省略			B=1 D=3　排出ガス対策型2次基準 F=0　燃料消費量（L/h）標準=省略		

施工単価表

建込工(両側分)　　SG1D0032001　　単第0 -0029　表

掘削深 4.0m以下　　1　m　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.36	人			
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.36	人			
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.73	人			
機-1_バックホウ(クローラ型)運転 [標準型・C付]B容量0.45m3_吊能力2.9t 排出ガス対策型2次基準	1.9	時間			単第0-0030　表
諸雑費	1	式			
1m当り(計/10m)					
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			
A=6　　掘削深 4.0m以下					

施工単価表

機-1_バックホウ(クローラ型)運転　　S9006　　単第0 -0030　表

[標準型・C付]B容量0.45m3_吊能力2.9t　　排出ガス対策型2次基準　　1　　時間　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
運転手(特殊) 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.17	人			
軽油 パトロール給油,2～4KL積載車給油	8.60	L			
バックホウ(クローラ型) 標準型・クレーン機能付き・排2 バケット容量0.45m3吊能力2.9t	1	時間			
諸雑費	1	式			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	時間			
A=12　[標準型・C付]B容量0.45m3_吊能力2.9t C=0　労務単価の夜間等割増率 E=0　運転労務数量（人/h）標準=省略			B=1 D=3　排出ガス対策型2次基準 F=0　燃料消費量（L/h）標準=省略		

施工単価表

引抜工(両側分)　　SG1D0032002　　単第0 -0031　表

掘削深 3.5m以下　　1　m　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.18	人			
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.18	人			
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.37	人			
<作>トラッククレーン(油圧伸縮ジブ型) 4.9t吊,オペレータ付	0.18	日			
諸雑費	1	式			
1m当り(計/10m)					
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			
A=5　　掘削深 3.5m以下					

施工単価表

引抜工(両側分)　　SG1D0032002　　単第0 -0032　表

掘削深 4.0m以下　　1　m　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.21	人			
特殊作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.21	人			
普通作業員 設計労務単価の補正割増し(1.14)	0.42	人			
<作>ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 16t吊,オペレータ付 排1～3,2011,2014	0.21	日			
諸雑費	1	式			
1m当り(計/10m)					
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	m			
A=6　　掘削深 4.0m以下					

施工単価表

仮設材等(鋼矢板,H鋼,覆工板,敷鉄板等)運搬　　S1000007　　単第0 -0033　表

運搬距離 2.6km　　製品長 12m以内　　1　　式　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
基本運賃 運搬距離 2.6km 製品長 12m以内 運搬質量 13.2t	1.000	式			単第0-0034　表
往復					
積込み,取卸しに要する費用	1.000	式			単第0-0035　表
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			
A=2.6　運搬距離(km) C=1　- E=13.2　運搬質量(t)			B=1　12m以内 D=1　- F=1　-		
H=1　- L=1　基地積込み・取卸し,現場積込み・取卸し			J=1　-		

施工単価表

基本運賃　　S1000009　　単第0 -0034　表

運搬距離 2.6km　　製品長 12m以内 運搬質量 13.2t　　1　式　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
基本運賃	1.000	式			※直接経費の対象外
t当り基本運賃	13.200	t			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			
A=1　基本運賃 C=1　12m以内			B=2.6　運搬距離(km) D=13.2　運搬質量(t)		

施工単価表

積込み,取卸しに要する費用　　S1000009　　単第0 -0035　表

1　　式　　当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
仮設材積込み費（基地）	13.200	t			
仮設材取卸し費（現場）	13.200	t			
仮設材積込み費（現場）	13.200	t			
仮設材取卸し費（基地）	13.200	t			
＊＊＊　単位当たり　＊＊＊	1	式			
A=5　積込み,取卸しに要する費用 K=1　基地積込み・取卸し,現場積込み・取卸し			D=13.2　運搬質量(t)		

数量計算書

土与丸御薗宇線

数　量　総　括　表

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	計算過程の数値	設計計上数値	摘　要
道路土工							
	残土運搬・処分	砂質土		m^3	0.7	0.7	
排水構造物工							
	側溝復旧工	自由勾配側溝	B300-H300	m	6.0	6	材料現場内流用
		スリット側溝	B300-H500	m	6.0	6	材料現場内流用
構造物撤去工							
	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	無筋コンクリート	m^3	1.2	1	
		舗装版切断	アスファルト, t=10、3cm	m	33.4	33	
		舗装版破砕	アスファルト, t=5cm	m^2	27.0	27	
	排水構造物撤去工	自由勾配側溝	B300-H300	m	6.0	6	側溝蓋　5枚
		スリット側溝	B300-H500	m	6.0	6	側溝蓋　3枚
	縁石撤去工	歩車道境界ブロック撤去		m	12.0	12	
	運搬処理工	殻運搬	アスファルト	m^3	1.5	2	
			コンクリート	m^3	1.2	1	
		殻処分	アスファルト	t	3.6	4	
			コンクリート	t	2.8	3	
仮設工							
	土留・仮締切工	建込簡易土留	H=3.5	m	6.0	6	
			H=4.0	m	6.0	6	
舗装工							
	アスファルト舗装工	表層(車道)	再生密粒度アスコン t=5cm	m^2	10.2	10	
	アスファルト舗装工	基層(車道)	再生粗粒度度アスコン t=5cm	m^2	9.0	9	
		上層路盤(車道)	再生粒調砕石 RM-30, t=10cm	m^2	9.0	9	
		下層路盤(車道)	再生切込砕石 RC-40, t=15cm	m^2	9.0	9	
		表層(歩道)	再生細粒度アスコン t=3cm	m^2	16.8	17	
		路盤(舗装)	再生切込砕石 RC-40, t=10cm	m^2	16.8	17	

数　量　総　括　表

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	計算過程の数値	設計計上数値	摘　要
縁石工							
	縁石工	歩車道境界ブロック	C種	m	12.0	12	
標識工							
	作業土工	床掘り	砂質土	m^3	79.4	80	
		埋戻し	区分C	m^3	70.8	70	
	大型標識工	標識基礎	片持ち式 B3600-H2600	基	1.0	1	
			片持ち式 B3600-H3600	基	1.0	1	
区画線工							
	区画線工	溶融式区画線	白色，実線，W=15cm	m	12.0	12	

計第 1 表

標 識 工　　集　　計　　表

(1/4)

名　　称	区分	側溝復旧（自由勾配側溝）	側溝復旧（スリット側溝）	舗装版切断（t=10、3cm）	舗装版破工（t=10、3cm）	U型側溝撤去（自由勾配側溝）	U型側溝撤去（スリット側溝）	縁石撤去工（C種）
	単位	m	m	m	m2	m	m	m
案内標識①			6.0	16.4	13.2		6.0	6.0
案内標識②		6.0		17.0	13.8	6.0		6.0
合　　計		6.0	6.0	33.4	27.0	6.0	6.0	12.0

計第 2 表

標 識 工　　集　　計　　表

(2/4)

名　　称	区分	構造物取壊し（無筋コンクリート）	殻運搬（アスファルト）	殻処分（アスファルト）	殻運搬（無筋コンクリート）	殻処分（無筋コンクリート）	建込簡易土留 H=3.5	建込簡易土留 H=4.0
	単位	m3	m3	t	m3	t	m	m
案内標識①		0.6	0.7	1.6	0.6	1.4		6.0
案内標識②		0.6	0.8	2.0	0.6	1.4	6.0	
合　　計		1.2	1.5	3.6	1.2	2.8	6.0	6.0

計第 3 表

標 識 工　　集　　計　　表

(3/4)

名　　称	区分	表層(車道) (再生密粒度アスコン,t=5cm)	基層(車道) (再生粗粒度アスコン,t=5cm)	上層路盤(車道) (再生粒調砕石, t=10cm)	下層路盤(車道) (再生切込砕石, t=15cm)	表層(歩道) (再生細粒度アスコン, t=3cm)	路盤(歩道) (再生切込砕石, t=10cm)	
	単位	m2	m2	m2	m2	m2	m2	
案内標識①		4.2	3.0	3.0	3.0	9.0	9.0	
案内標識②		6.0	6.0	6.0	6.0	7.8	7.8	
合　　計		10.2	9.0	9.0	9.0	16.8	16.8	

計第 4 表

標 識 工　　集　　計　　表

(4/4)

名　　称	区分	歩車道境界ブロック（C種）	床掘り（砂質土）	埋戻し（区分C）	残土運搬・処分（土砂）	大型標識工（B3600-H2600）	大型標識工（B3600-H3600）	溶融式区画線 白色, W=15cm
	単位	m	m3	m3	m3	基	基	m
案内標識①		6.0	39.0	35.7	-0.7	1.0		6.0
案内標識②		6.0	40.4	35.1	1.4		1.0	6.0
合　　計		12.0	79.4	70.8	0.7	1.0	1.0	12.0

案内標識①　　数 量 計 算 書

種　別	計　　算　　式	数　量	
構造物取壊し工			
舗装版切断 (t=10、3cm)	L=(1.9+1.1+1.1+1.9)×2+2.2×2=	16.4	m
舗装版破砕 (t=10、3cm)	A=(0.7+1.5)×(1.9+1.1+1.1+1.9)=	13.2	m2
構造物取壊し 無筋コンクリート	V=0.1×(1.9+1.1+1.1+1.9)=	0.6	m3
排水構造物撤去工			
U型側溝撤去 (スリット側溝)	L=1.9+1.1+1.1+1.9=	6.0	m
縁石撤去工			
歩車道境界ブロック撤去 (C種)	L=1.9+1.1+1.1+1.9=	6.0	m
運搬処理工			
殻運搬 (アスファルト)	V=0.7×(1.9+1.1+1.1+1.9)×0.1+1.5×(1.9+1.1+1.1+1.9)×0.03=	0.7	m3
殻運搬 (無筋コンクリート)		0.6	m3
殻処分 (アスファルト)	W=0.7×2.35=	1.6	t
殻処分 (無筋コンクリート)	W=0.6×2.35=	1.4	t
仮設工			
建込簡易土留 (H=4.0)	L=6.0	6.0	m
舗装復旧工			
表層(車道)W1 (再生密粒度アスコン, t=5cm)	A=0.7×(1.9+1.1+1.1+1.9)=	4.2	m2
基層(車道)W2 (再生粗粒度アスコン, t=5cm)	A=0.5×(1.9+1.1+1.1+1.9)=	3.0	m2
上層路盤(車道)W3 (再生粒調砕石, t=10cm)	A=0.5×(1.9+1.1+1.1+1.9)=	3.0	m2
下層路盤(車道)W4 (再生切込砕石, t=15cm)	A=0.5×(1.9+1.1+1.1+1.9)=	3.0	m2
表層(歩道)W5 (再生細粒度アスコン, t=3cm)	A=1.5×(1.9+1.1+1.1+1.9)=	9.0	m2
路盤(歩道)W6 (再生切込砕石, t=10cm)	A=1.5×(1.9+1.1+1.1+1.9)=	9.0	m2

案内標識①　　数 量 計 算 書

種　別	計　　算　　式	数　量
側溝工		
側溝復旧 (スリット側溝)	L=1.9+1.1+1.1+1.9=	6.0　m
縁石工		
歩車道境界ブロック (C種)	L=1.9+1.1+1.1+1.9=	6.0　m
標識工		
床掘り (砂質土)	V=(9.5+0.0)/2×1.9*2+9.5×1.1×2=	39.0　m3
埋戻し (区分C)	V=39.0-3.14×1.20²/4×2.90=	35.7　m3
残土運搬・処分 土砂	V=39.0-35.7/0.9=	-0.7　m3
大型標識工 (B3600-H2600)	N=1.0	1.0　基
区画線工		
溶融式区画線 (白色, w=15cm)	L=1.9+1.1+1.1+1.9=	6.0　m

案内標識②　　数 量 計 算 書

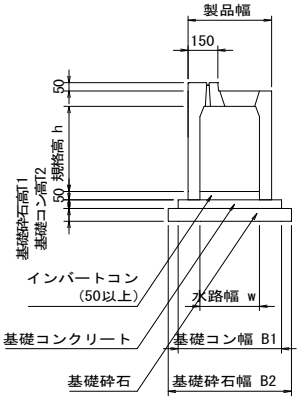
種　別	計　　算　　式	数　量	
構造物取壊し工			
舗装版切断 (t=10、3cm)	L=(1.7+1.3+1.3+1.7)×2+2.5×2=	17.0	m
舗装版破砕 (t=10、3cm)	A=(1.0+1.3)×(1.7+1.3+1.3+1.7)=	13.8	m2
構造物取壊し (無筋コンクリート)	V=0.1×(1.7+1.3+1.3+1.7)=	0.6	m3
排水構造物撤去工			
U型側溝撤去 (自由勾配側溝)	L=1.7+1.3+1.3+1.7=	6.0	m
縁石撤去工			
歩車道境界ブロック撤去 (C種)	L=1.7+1.3+1.3+1.7=	6.0	m
運搬処理工			
殻運搬 (アスファルト)	V=1.0×(1.7+1.3+1.3+1.7)×0.1+1.3×(1.7+1.3+1.3+1.7)×0.03=	0.8	m3
殻運搬 (無筋コンクリート)		0.6	m3
殻処分 (アスファルト)	W=0.8×2.35=	2.0	t
殻処分 (無筋コンクリート)	W=0.6×2.35=	1.4	t
仮設工			
建込簡易土留 (H=3.5)	L=6.0	6.0	m
舗装復旧工			
表層(車道) (再生密粒度アスコン, t=5cm)	A=1.0×(1.7+1.3+1.3+1.7)=	6.0	m2
基層(車道) (再生粗粒度アスコン, t=5cm)	A=1.0×(1.7+1.3+1.3+1.7)=	6.0	m2
上層路盤(車道) (再生粒調砕石, t=10cm)	A=1.0×(1.7+1.3+1.3+1.7)=	6.0	m2
下層路盤(車道) (再生切込砕石, t=15cm)	A=1.0×(1.7+1.3+1.3+1.7)=	6.0	m2
表層(歩道) (再生細粒度アスコン, t=3cm)	A=1.3×(1.7+1.3+1.3+1.7)=	7.8	m2
路盤(歩道) (再生切込砕石, t=10cm)	A=1.3×(1.7+1.3+1.3+1.7)=	7.8	m2

案内標識②　　数 量 計 算 書

(2/2)

種　別	計　　算　　式	数　量
側溝工		
側溝復旧 (自由勾配側溝)	L=1.7+1.3+1.3+1.7=	6.0　m
縁石工		
歩車道境界ブロック (C種)	L=1.7+1.3+1.3+1.7=	6.0　m
標識工		
床掘り (砂質土)	V=(9.4+0.0)/2×1.7×2+9.4×1.3×2=	40.4　m3
埋戻し (区分C)	V=40.4-3.14×1.50^{2}/4×3.00=	35.1　m3
残土運搬・処分 (土砂)	V=40.4-35.1/0.9=	1.4　m3
大型標識工 (B3600-H3600)	N=1.0	1.0　基
区画線工		
溶融式区画線 (白色, w=15cm)	L=1.7+1.3+1.3+1.7=	6.0　m

スリット付自由勾配側溝断面図



スリット付自由勾配側溝材料表

名称	規格	数量	単位
インバートコンクリート	σck=18N/mm2	0.186	m3
基礎コンクリート	σck=18N/mm2	0.156	m3
同上型枠	均し基礎型枠	0.600	m2
基礎砕石	RC-40	3.720	m2

インバートコンクリート

	延長	インバート高		インバート幅	コンクリート(m3)
		左側	右側		
No.2付近	6	0.119	0.088	0.3	0.186
計					0.186

基礎コンクリート

	延長	幅	厚	コンクリート(m3)
No.2付近	6	0.52	0.05	0.156
計				0.156

基礎コンクリート型枠

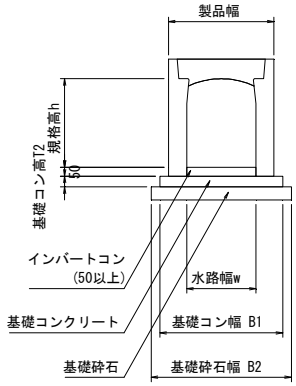
	延長	厚	型枠面積(m2)
No.2付近	6	0.05	0.6
計			0.600

基礎砕石

	延長	幅	面積(m2)
No.2付近	6	0.62	3.72
計			3.720

自由勾配側溝断面図

一般部



自由勾配側溝材料表

名称	規格	数量	単位
インバートコンクリート	σck=18N/mm2	0.090	m3
基礎コンクリート	σck=18N/mm2	0.180	m3
同上型枠	均し基礎型枠	0.600	m2
基礎砕石	RC-40	4.200	m2

インバートコンクリート

	延長	インバート高		インバート幅	コンクリート(m3)
		左側	右側		
No.13付近	6	0.05	0.05	0.3	0.09
計					0.090

基礎コンクリート

	延長	幅	厚	コンクリート(m3)
No.13付近	6	0.6	0.05	0.18
計				0.180

基礎コンクリート型枠

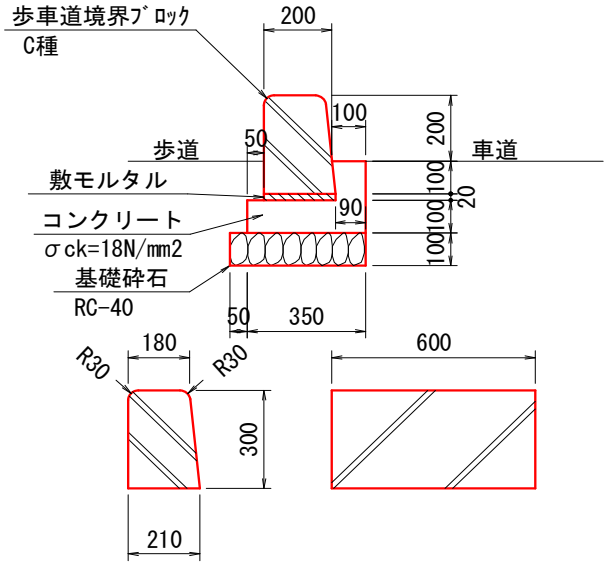
	延長	厚	型枠面積(m2)
No.2付近	6	0.05	0.6
計			0.600

基礎砕石

	延長	幅	面積(m2)
No.2付近	6	0.7	4.2
計			4.200

計第　－　表　**歩車道境界ブロックBB-F200　材 料 計 算 書**（10m当たり）

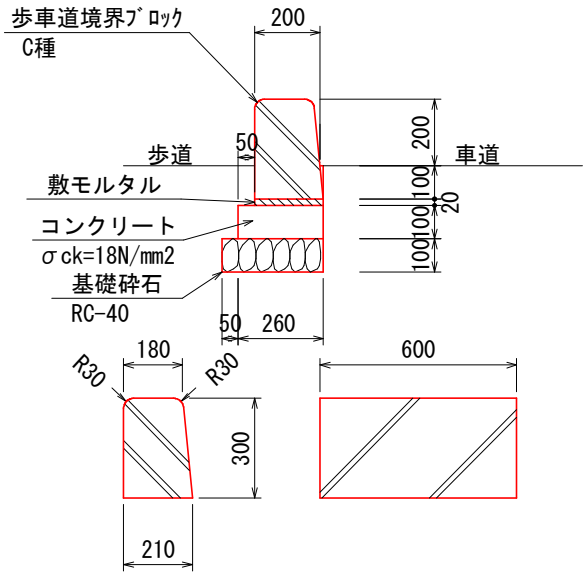
1-1型構造図



種　別	規　格	算　式	単 位	数　量
ブロック	道境界ブロックBB- (L=0.6m)	現場内流用	個	
コンクリート	б ck=18N/mm^2	((0.10+0.09)/2×0.10+0.10×0.35+0.09×0.02)×10	m^3	0.463
型枠	無筋構造物	(0.22+0.10)×10	m^2	3.200
基礎砕石	RC-40 (t=10cm)	0.40×10.0 0.40×0.10×10.0	m^2 m^3	4.00 0.400
敷ﾓﾙﾀﾙ	1 : 3	0.21×0.02×10	m^3	0.042

計第　－　表　**歩車道境界ブロックBB-F200　材 料 計 算 書**（10m当たり）

2型構造図



種　別	規　格	算　式	単 位	数　量
ブロック	道境界ブロックBB- (L=0.6m)	現場内流用	個	
コンクリート	б ck=18N/mm^2	0.26×0.10×10	m^3	0.260
型枠	無筋構造物	0.10×2×10	m^2	2.000
基礎砕石	RC-40 (t=10cm)	0.31×10.0 0.31×0.10×10.0	m^2 m^3	3.10 0.310
敷ﾓﾙﾀﾙ	１ ： ３	0.21×0.02×10	m^3	0.042